

四国の中心で下川町愛を叫ぶ

2023年2月19日

土佐町企画推進課 SDGs推進室 尾崎 康隆



土佐町

SDGs未来都市

自己紹介



尾崎 康隆（おざき やすたか）

- ・土佐町企画推進課 SDGs推進室 室長(2021～)
- ・民間企業、県職員を経て2019年～土佐町職員
- ・慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 在学中(2022～)



Article

Citizens' Social Participation to Implement Sustainable Development Goals (SDGs): A Literature Review

Yasutaka Ozaki and Rajib Shaw *

Graduate School of Media and Governance, Keio University, Fujisawa 252-0882, Japan

* Correspondence: shaw@sfc.keio.ac.jp

Abstract: SDGs emphasize the importance of multi-stakeholder processes, particularly in promoting citizen-level participation. This paper aims to understand the current status of citizens' social participation and the challenges in promoting them in order to achieve SDGs and create a resilient society. To achieve this objective, the literature review method is used. The literature was obtained from source databases related to recent literature on citizens' participation with regard to SDGs. In the discussion and conclusion, this paper examines the possibility that one of the vital issues in promoting social participation of citizens could be information sharing. It also describes the cycle which citizens themselves become the main actors in generating information to promote citizen participation, and the information generated through this process leads further citizen participation. These results will be used as the basis for the following action research process. This paper is positioned as introductory in nature, and the importance of information sharing will be examined more closely in future studies.

Keywords: SDGs; sustainable development; citizen; participation; information; multi-stakeholder process; citizen science

水で生きる

土佐町
• TOSA-CHO •





呉

今治

新居浜

四国中央

香川県

徳島

阿南

徳島県

松山

西条

四国

愛媛県

56

高知

香南

八幡浜

大洲

高知県

西予

須崎

宇和島

室戸

四万十

宿毛

土佐清水

立地

- 町面積:212.13km²
- 高知市の北、四国の中央部に位置する山間の町
- 四国の水瓶「早明浦ダム」がある水源地

人口等

- 人口:約3,750人(2021国勢調査)→2040年推計:約2,329人
- 高齢化率:約47%
- 合計特殊出生率:1.61(2013-2017)
- 有配偶率:54%、有配偶出生率:102.9(2015)

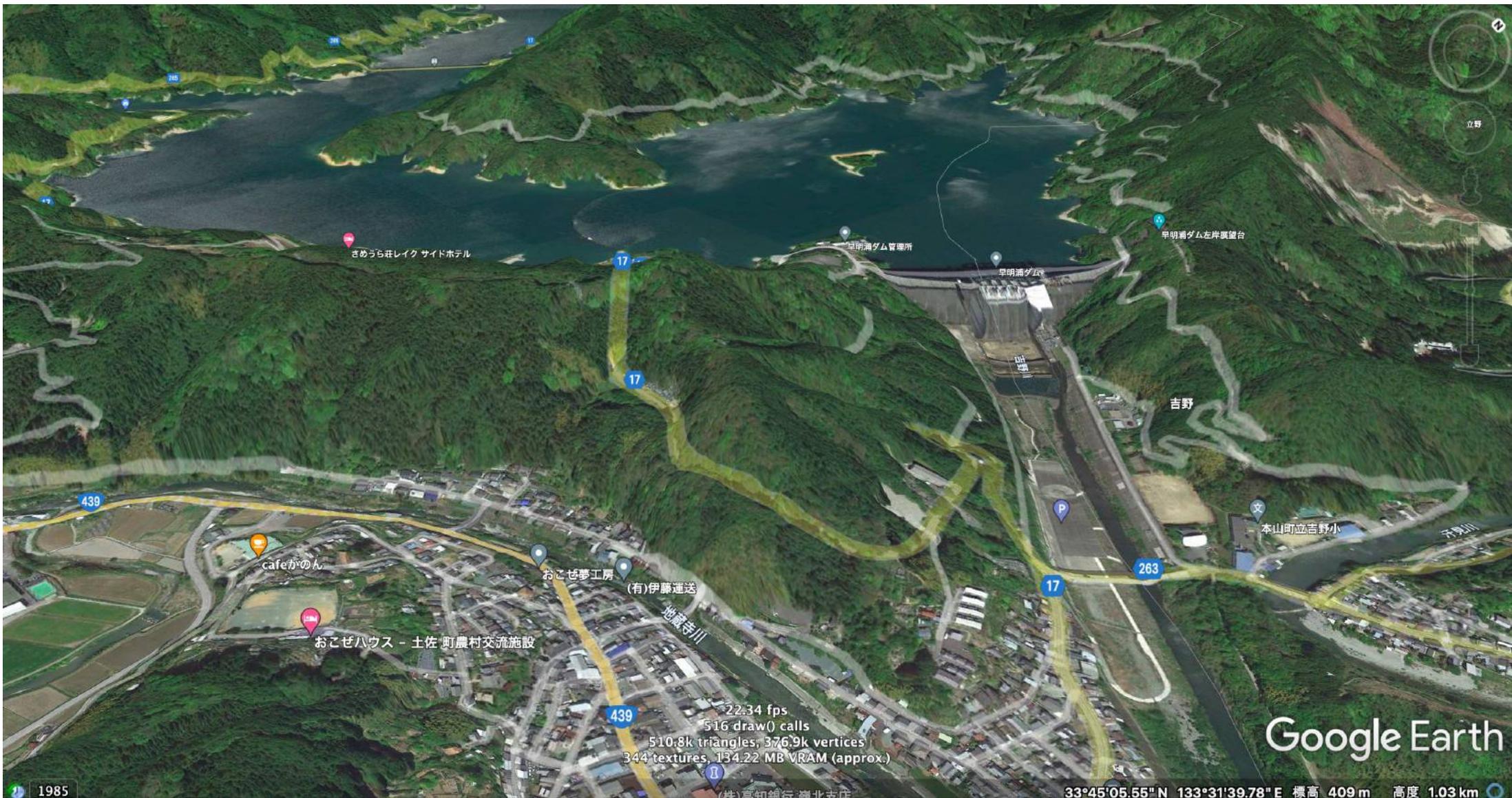
産業

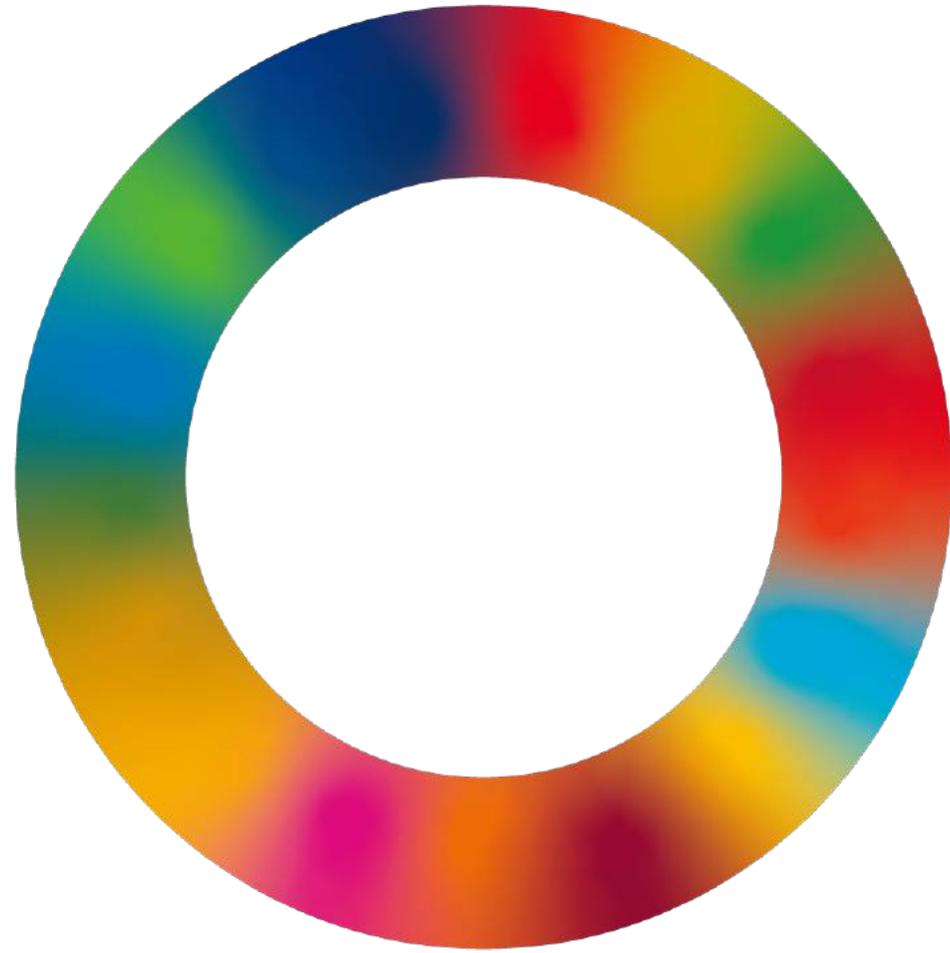
- 基幹産業は第1次産業:
 - 棚田(稲作・酒米)
 - 土佐あか牛の国内最大生産地
 - 林業(森林率86%、うち人工林率82%)
- 産業別付加価値額では「医療・福祉」が4割占める

■SDGs未来都市(2020年度～)

「SDGsと住民幸福度に基づく“誰ひとり取り残されない”持続可能なまちづくり」

土佐町は水の町





TOSA TOWN

SDGs FUTURE TOWN

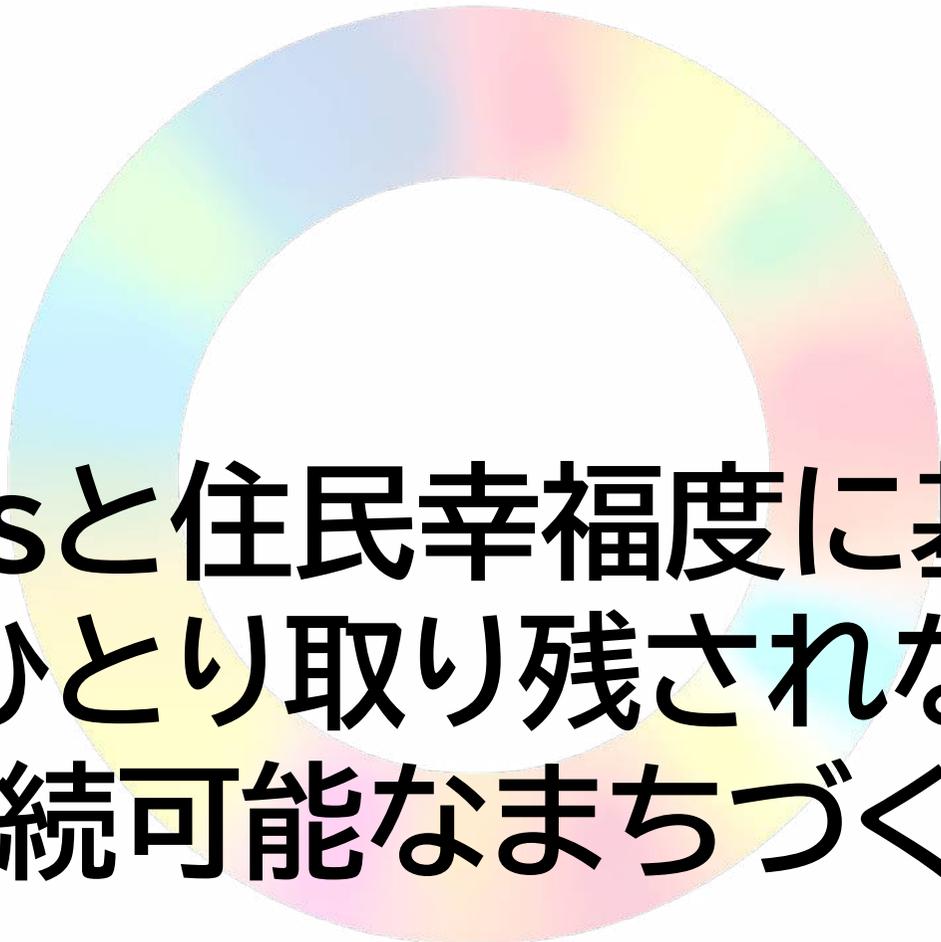
2020年度SDGs未来都市選定

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）
 青字：SDGs未来都市
 ※県が選定されている場合は県全域を着色。



| | 都市名 | 提案タイトル |
|----------------|------------------------------------|--|
| 自治体SDGsモデル事業含む | 宮城県石巻市 | 最大の被災地から未来都市石巻を目指して ～グリーンローモビリティ「おたがいま」で支え合う持続可能なまちづくり～ |
| | 東京都豊島区 | 消滅可能性都市からの脱却 ～持続して発展できる「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～ |
| | 石川県金沢市 | 世界の交流拠点都市金沢の実現 ～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～ |
| | 三重県いなべ市 | グリーンクリエイティブなべ ～グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGs推進を世界へ～ |
| | 京都府亀岡市 | 「かめおか露の芸術祭」× X（かけるエクス） ～持続可能性を生み出すイノベーション～ |
| | 大阪府・大阪市 | 2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて |
| | 大阪府富田林市 | SDGsを共通言語としたマルチパートナーシップによる「富田林版」のいち輝く未来社会のデザイン |
| | 岡山県倉敷市 | 多様な人材が活躍し、自然と共存する「持続可能な流域暮らし」の創造 ～高梁川流域圏の発展は倉敷市の発展～ |
| | 愛媛県松山市 | みんなを笑顔に「観光未来都市まつやま」 ～瀬戸内の島・里・山をつなぐまち～ |
| | 沖縄県石垣市 | 自然と文化で創る未来 ～守り・築き・活かす島 石垣～ |
| SDGs未来都市 | 岩手県岩手町 | トリプルボトムラインによる町の持続可能性向上モデルの構築・実証 ～SDGs姉妹都市×リビングラボ～ |
| | 宮城県仙台市 | 「防災環境都市・仙台」の推進 |
| | 山形県鶴岡市 | 森・食・農の文化と先端生命科学が共生する「いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡」 |
| | 埼玉県春日部市 | 春日部2世、3世その先へと住みつなぐまち ～未来へ発信する世代循環プロジェクト～ |
| | 神奈川県相模原市 | 都市と自然 人と人 共にささあいきる さがみはらSDGs構想 |
| | 石川県加賀市 | 官民協働のスマートシティによる持続可能なまち |
| | 石川県能美市 | 能美市SDGs未来都市 暮らしやすさ日本一実感できるまちへ |
| | 長野県大町市 | SDGs 共創パートナーシップにより育む「水が生まれる信濃おおまち」サステナブル・タウン構想 |
| | 岐阜県 | SDGsを原動力とした持続可能な「清流の国ぎふ」の実現 |
| | 静岡県富士市 | 富士山とともに輝くまち |
| | 静岡県掛川市 | 市長の夢 |
| | 愛知県岡崎市 | 岡崎のまち |
| | 三重県 | 三重のまち |
| | 滋賀県湖南市 | 湖南のまち |
| | 大阪府豊中市 | 豊中のまち |
| | 兵庫県明石市 | 明石のまち |
| | 広島県東広島市 | 東広島のまち |
| | 香川県三豊市 | 三豊のまち |
| | 高知県土佐町 | 持続可能な水源のまち土佐町 ～人々の豊かな営みが「世界」を潤す水を育む～ |
| | 福岡県宗像市 | 「世界遺産の海」とともに生きるSDGs未来都市 むなかた |
| 長崎県対馬市 | 自立と循環の宝の島 ～サーキュラーエコミーアイランド対馬～ | |
| 熊本県水俣市 | みんなが幸せを感じ、笑顔あふれる元気なまちづくり | |
| 鹿児島県鹿児島市 | 「活火山・桜島」と共生し発展する持続可能なSDGs未来都市・鹿児島市 | |

高知県唯一の
SDG未来都市
(2023.2時点)



SDGsと住民幸福度に基づく
“誰ひとり取り残されない”
持続可能なまちづくり

TOSA TOWN

SDGs FUTURE TOWN

土佐町組織体制



住民

土佐町SDGs推進会議

- 第7次土佐町振興計画(土佐町版SDGs)の達成状況の把握及び評価を行う。
- 4半期ごとに開催し、上記を踏まえた計画の推進や見直しを協議。25名。

町長

副町長

庁議 SDGs推進について随時共有

SDGs推進室長

SDGs推進室

土佐町3713人カイギ飯

- SDGs推進係と連携しながら、住民側での事業推進
- 月イチペースでWSや講演会など開催

総務課

住民課

農畜林振興課

建設課

健康福祉課

教育委員会

出納室

議会事務局

企画推進課

- SDGs推進室を設置し、庁内横串での推進体制とする。
- 各課職員に兼任辞令を発令。各課施策との調整を実施。

目指す姿

永遠の水源地

Origin × 【3,608】 × X = Sustainable

水源に生きる【3,638】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、まちの持続可能性となる。
土佐町に暮らす全ての人について、それぞれの立場や個性が尊重されることが、持続可能な土佐町の実現につながるような、そんな町を目指す。

まちの持続可能性となる

ミッション

SDGsと住民幸福度に基づく “誰ひとり取り残されない” 持続可能なまちづくり

- ・ 誰ひとり取り残さないための自治体のガバナンス
 - ・ “持続可能性の国際標準規格”としてのSDGsを「町の現在位置」を知るためのモノサシとしながら、土佐町の地域課題の解決に取り組む。
 - ・ 町の“全ての人”の声がまちづくりに反映され、希望する全ての人がまちづくりに関わることができるための仕組みづくりに取り組む。
- ・ 持続可能な開発のための施策推進、パートナーシップ
 - ・ 「将来世代の求めるものを損なうことなく、現役世代の求めるものを満たす」ことを念頭に置く。
 - ・ それを実現する上で、地域内・地域外それぞれとの協力関係を強化する。また自地域の発展が他地域の発展にも繋がるよう取り組む。

取組指針

まもる

町民の暮らしをまもる
これまで大切にしてきた暮らしの価値をまもる
土佐町の自然環境をまもる

永遠の水源地

$Origin \times (3,782) \times X = Sustainable$

水源に生きる【3,782】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、
まちの持続可能性となる

つくる

今ある課題や将来予想される課題を解決できる仕組みをつくる
世界の中で、これからも土佐町が持続可能であるための仕組みをつくる
次世代が土佐町で暮らしていくことができるための仕組みをつくる

つなげる

世代をつなげる
人と人をつなげる
地域の内と外をつなげる
土佐町のこれまでとこれからをつなげる

第7次土佐町振興計画

2021.4

取組の3つの柱

“目指す姿”の実現に向けて、まずは下記に掲げる柱に重点的に取り組みます。

永遠の水源地

Origin × 【3,782】 × X = Sustainable

第7次
土佐町振興計画



3つの柱



SDGs
未来都市計画

1 誰ひとり取り残されないまちづくり

No one will be left behind

2 環境・経済・社会のバランスが取れた施策推進

balanced integration of the social, economic and environmental

3 パートナーシップを通じた持続可能な開発

Multi-stakeholder partnerships to archive the sustainable development



下川町は、町とSDGsを考える上で、
とても大きな道標でした。

2019-2020

19.5 住民幸福度調査

計画策定

20.7 SDGs未来都市計画

第7次土佐町振興計画(総合計画)

2021-2022

SDGs推進室 設置

取組が本格的にスタート

実行

広域連携SDGsモデル事業

改めて、SDGsを取り入れるとは



誰ひとり取り残されない

No one will be left behind

バックカスティング、インディケーター

経済・社会・環境の統合、循環

Interlinkage

つながり、連携(背景としての分断)

Pertnerships

改めて、SDGsを取り入れるとは



TOSA TOWN
SDGs FUTURE TOWN

誰ひとり取り残されない

No one will be left behind

バックカスティング、インディケーター

経済・社会・環境の統合、循環

Interlinkage

つながり、連携(背景としての分断)

Partnerships

永遠の水源地

Origin × 【3,782】 × X = Sustainable

水源に生きる【3,782】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、
まちの持続可能性となる

第7次土佐町振興計画

総合計画の策定プロセス



- 全体で丸2年かかりの計画策定
- 町民幸福度調査(層化無作為抽出)
- 職員に対し、クラウドファンディング、新規事業開発、ファシリテーションの研修を実施
- 18歳以上住民1,000名へのアンケート(無作為抽出)
- 40代以下の町民を対象とした「未来ミーティング」で計画骨子を策定
- 骨子をベースに町内各地域でワークショップ(約30回)
- 「**2030年の土佐町のありたい姿**」を描きながら、それが「**誰ひとり取り残されない**」計画として**体現される**ことを目指した。



本編 28ページ



副本 143ページ



土佐町版SDGs

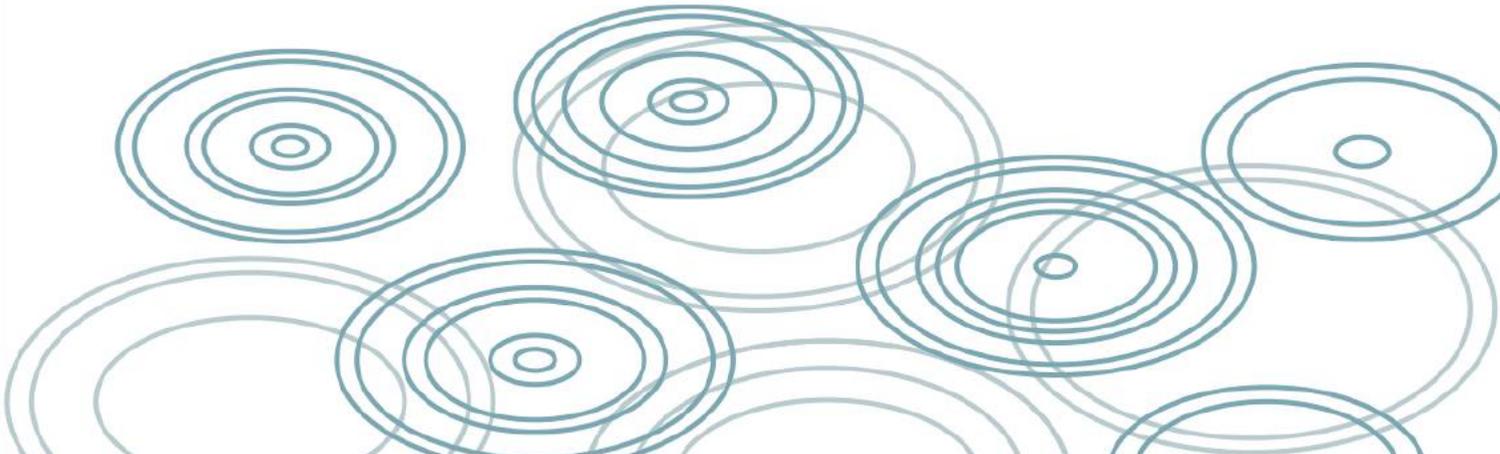
これからも土佐町で
暮らしていくための
10個の目標

持続可能な行財政

町民と役場が一体で協働する開かれたまちづくりを推進し、職員ひとりひとりが地域に溶け込み、主体的に地域の課題解決に取り組む職員を育てていく。

社会の先行きが見通しにくい現代。10年先を見据えた健全な財政運営を基本としながら、一方で、新しい施策にも積極的に取り組むことも必要ともなっています。地域を愛し、地域が直面している様々な課題の解決に柔軟に取り組んでいくことができる。そのような職員を増やしていくための人材育成を積極的に進めていきます。

Government
for
Sustainability



2030年の土佐町の「教育・学び・子育て」にむけて

地域のみなさんの声 (計画の策定にあたり、ワークショップなどでいただいた意見を全て掲載しています。)

●医療費学費免除 ●地域全体で支え合って町を担う子どもが増える。 ●挨拶できる子どもを！

●地域で子どもを大事にしよう。 ●良識ある思いやりのある子どもに育つ。 ●保小中高の維持

●子どもがのびのび育てられる土佐町

●開かれた学校づくりを続けてほしい。 ●子どもが増えて明るい楽しい学校づくり ●学力ばかりやなくて生きる力を身につけられる町。

●生徒がのびのび正しく育つ教育方針 ●子どもへの対応が分からんとか、家庭でできる教育を学校へ任せちゃうように感じ、実際に先生方も困っちゃう。●新しい保育園の計画は？SDGsをふまえた保育園にしたいねえ。 ●幼児保育 ●子育てが楽しいと思える町にしてほしい。親はしんどい。

何にも頼れるものがない！ファミリーサポートなしでうんと大変。保育園は労働してない人の子どもはあずかれん。

●親も育てて、支えてほしい。

●大人が頑張る姿勢を見せて、いろいろな分野で、一つになって、より良い土佐町を目指す。 ●大人の教育がもっともっと必要と思う。研修会などやってもらえると有難い。 ●親が子育てしやすい環境を整えて欲しい。お父さんが育休とるのは難しいけど、週に1回くらい早く帰るなどしてほしい。 ●移住したお母さんは心細くしんどい。産後のお母さんは心も不安定。ちょっとしたカフェはほしい。よそのお母さんも地域で支えられるようにしたい。 ●子どもを連れて行きやすいカフェ。 ●産後のヘルプ産後のケア欲しい。 ●一次保育を安くしてほしい。 ●おむつ引換券みたいな支援があれば ●土佐町には公衆トイレがない。ベビーカーを押しているお母さんのトイレがない。おむつ替えするところがない。改善してほしい。

●配慮に必要な支援について、教育支援センター に関する内容を盛り込んでいただきたい。学校へいけん、発達障害の方は思うちゅう以上に多い。

●教育員会と学校が協議することが必要。ここ最近の学校はいそがしい。新しいことをすることが

難しく、むしろ仕事を減らさんとやっていけんという風を感じる。けんど、子どもは色々な経験が必要。大人の事情で子どもの経験が減るのは良くない。芸術や山登りをしたことない子もおる。学校でやりきれないところを教育委員会や社協で機会を増やして欲しい。 ●ファミサポは正式な資格はいらないのでぜひ増やしていきたい。病後児保育の充実が必要。 ●開かれた学校づくりについて検討の充実が必要。教員も非常に忙しい。学校と地域が一緒になって子どもを育てていくとともに、EdTech(教育テクノロジー)の活用なども検討しながら、教員側の負担を軽減していくことにも取り組んでいくことが必要。同時に、学校へ行くことが難しい子ども達も思っている以上に多いので、教育支援センター等の取組も振興計画に位置付け、推進してほしい。 ●あこ後の活用、放課後の子ども勉強。ボランティア先生(父兄など)を募集する。 ●子どもが楽しめる公園色々な遊具 ●子どものための何かイベントなど。

●私らが子どもの時、 小中学校の間に笹ヶ峰にある自然に触れあう機会が学校以外の離れたグループ(親子遠足など)などであった。そういう機会の良さが、町に出ていった後で分かって、まちに帰って子どもをそういう風に育てたいと思う。人を呼んでくることに力をいれようけど、今の子どもにも力をいれてや。 ●高校生の時、東京で枝打ち体験で自然に触れた経験がある。 ●町内放送は昔小学生のコーナーがあった。朗読を録音して流してくれる。こどもの声が聞こえんかったといゆう。インタビューや朗読はみんな楽しみにしよった。 ●仕事と産業で教育もかかわるかも。キャリア教育。仕事を学ぶ場、

●町民全員先生だ！

であう場をつくるのが大事なんじゃないかなと思う。 ●笹ヶ峰ウォーキングについて、2年前くらいに草刈りした。道づくり清掃活動を

各地区でやりゆう。これからは、子どもをつれてって、一緒に今まで使った道の再生に取り組んでいく。高知はとさこタウン。働いたら対価がもらえるように(現金ではなくお菓子など)したい。坂を歩くことは健康につながるのでスポーツにもつなげていきたい。 ●子ども達に対する取組だけでなく、大人や親自身が学びを深め育つことができる仕組みづくりが必要。同時に、

●土佐町の魅力に気づき、つくる教育 医療・福祉・子育て支援の充実、夫婦が等しく子育てに関わることができ、働きながらでも子育てしやすい仕組みづくりについても、計画に盛り込んでいく必要がある。 ●町のイベント行事等を支えてくれた

社会団体が減っている状況。大人にとっても学びの機会、社会貢献活動をしっかりつくっていくこと、こどもにそういう姿をみせていくことが大事。おとなの学びの機会、社会教育・生涯学習につなげていくのも入れて欲しい。●子どもたちの成長のため、「土佐町を知ること」「土佐町外との出会いの機会を充実させること」両面の充実が必要である。以前は小中学生が地域や自然に触れながら町のことを知る機会が多くあり、それらを通じて、地域住民も子どもたちに関わることができていた。また、土佐町で育っていく上で、人との交流や、地域外の情報が不足しがち。人との出会いの機会、キャリア教育や仕事を学ぶ機会についても充実させて欲しい。 ●子どもが自然に触れる機会を推進していかんといかん。自然環境のモニタリング

にも繋がる。 ●小学生ふるさとバス⇒町内のスポットを学習してまわる活動(学校の授業に参入)学校と町の協力が必要。 ●土佐町の歴史を学べる機会を増やす ●こどもたちの教育の部分でいろんな考え方があること

●県外に出た子が帰りとうなる土佐町

を伝えたい。それがはやくチャレンジできる、アイデアが形にできる施策ができるといいなと思った。 ●若い人が土佐町に帰って来て働ける場が欲しい。 ●自由に生きる力を育む。

第7次土佐町振興計画進捗評価 指標及び取組一覧

| カテゴリ | ゴール (目標) | ターゲット (具体的行動) | インディケータ (指標) | | | | | | 施策 | 関連計画 (データソース) | SDGsゴール | |
|---|--|--|--------------|----|--------|------|-------------------------|-----------------------------|---|--|--|---------------------------------|
| | | | 目標値 | 単位 | 方針 | 現状値 | 当約値 | 年度 | | | | 測定指標 |
| 1 教育・学び・子育て | この町で「生きる力」を学び、活動する世界に伸ばしていく。町で育つたくさんの子どもたちの笑顔を、地域全体で支える。 | 2030年までに、保育・小学校・中学校・高等学校・高等専門学校等の各世代において、本人の「ありたい姿」の実現に繋がる質の高い教育を受けることができ、希望する進路を選択できるようにする。 | 100 | % | ↑ | | | 年 | 自己の希望に沿った進路選択 | 県北高校魅力化事業 | 土佐町教育振興基本計画 (教育大綱) 土佐町子ども・子育て支援事業計画 | 4 質の高い教育をみんなに |
| | | | 0 | 教科 | ↑ | | | 年 | 小中学校において、専科教員が配置されていない教科の数 | | | |
| | | | 75 | % | ↑ | | 65 | 年 | 土佐町からの県北高校進学者 | 県北高校魅力化事業 | | |
| | | | 60 | 人 | ↑ | | 35 | 年 | 県北高校の1学年の生徒数 | 県北高校魅力化事業 | | |
| | | | | 回 | ↑ | | | 年 | 保・小・中・高の中で連携している取組の数 | 保・小・中・高連携 | | |
| | | 2030年までに、地域特性や自然環境を活かした、土佐町ならではの、土佐町だからできる教育が提供できるようにする。 | 5 | 教科 | ↑ | | 1 | 年 | 全国学力・学習状況調査 (9年3教科、9年3教科) において、全国平均を上回った教科の数 | 学力向上対策推進事業 (校内研修、基礎基本の定着のためのドリル等) | | |
| | | | 100 | 人 | → | | 77 | 随時 | 学校応援団活動人数 | 学校応援団推進本部による学校支援 | | |
| | | | 4 | 回 | ↑ | | 0 | 年 | 地域資源を活用した体験学習実施回数 | ふるさと教育事業 | | |
| | | | 80 | % | ↑ | | 45 | 年 | 教員のIT活用指導力の状況に関する調査において、「できる」と回答した教員の割合 | ICT教育の充実 (ICT機器の整備、教員の指導力向上、児童生徒のICT活用) | | |
| | | | 100 | % | ↑ | | 84 | 年 | 専断にインターネットを活用して学習ができる環境がある児童生徒の割合 | 子どもたちのサードプレイスの設置 | | |
| 2030年までに、土佐町で暮らす全ての人々が、新たな知識を習得したり今ある知識を深めるため、生涯学び続けることができるようにする。 | 0 | 人 | ↑ | | 0 | 年 | 不登校児童生徒等、教育を受けられない子どもの数 | 教育支援センター事業 | | | | |
| | 0 | 人 | → | | 0 | 年 | 特撮児童数 | つば保育園 | | | | |
| | 1 | 箇所 | ↑ | | 0 | 年 | 病児・病後児保育の可能な施設の数 | ファミリーサポートセンター等 | | | | |
| | 1 | 箇所 | → | | 1 | 年 | 養育施設や児童地域協議会設置数 | 児童虐待予防等に関する地域ネットワーク体制 | | | | |
| | 5 | 部 | → | | 5 | 年 | 土佐町中学校部活動数 (運動部) | | | | | |
| 2 スポーツ | ここだからこそのスポーツ。誰しかなくていいスポーツ。どちらも大事。多様な感性に触れることができる。そしてそれが、健康や世代交流にもつながる。 | 2030年までに、人口が減っていく中でも、学校部活動や地域のスポーツクラブなどで、自分のやりたいスポーツに取り組みできるようにする。 | | % | ↑ | | | 年 | 部活動における外部指導員等の割合 | 部活動における外部指導員の活用促進 | 土佐町教育振興基本計画 (教育大綱) | 4 質の高い教育をみんなに 11 健康な生活を送るために |
| | | | 6 | 部 | ↑ | | 5 | 年 | 県北高校部活動数 (運動部) | | | |
| | | 2030年までに、地域の自然環境など、土佐町の地域特性に適したスポーツに取り組みやすい環境をつくる。 | 4 | 回 | ↑ | | 2 | 年 | 地域資源を活かしたスポーツイベントの開催数 | 土佐町スポーツ振興事業 | | |
| | | | 25 | 人 | ↑ | | 19 | 月 | カヌーアカデミー生人数 | カヌーアカデミー (競技カヌー) 推進 | | |
| | | 2030年までに、各世代でスポーツを通じた健康づくりの環境があり、それらを通じて、成人以上の世代の健康を促進する。 | 5 | 名 | ↑ | | 1 | 月 | スポーツツーリズム実施事業者数 | 競技カヌーのスポーツツーリズム推進及び合宿誘致 | | |
| | | | 1,000 | 人 | ↑ | | 678 | 月 | アクティビティ利用者数 | パドルスポーツ等を中心としたアウトドアスポーツ及びアクティビティの推進 (学校教育) | | |
| | | 2030年までに、地域総合型スポーツクラブなどを通じて、多世代で様々な競技に触れることができるようにする。 | 全県平均以上 | % | → | | 全県平均以上 | 年 | 全国学力・運動能力、運動習慣等調査 運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをやるのが好き」と肯定的回答 | 学力向上の推進 (学校教育) | | |
| | | | 500 | 人 | ↑ | | 0 | 月 | 健康づくりイベント及び運動教室の参加者数 | カヌーテラスでの健康づくりイベント及び運動教室を通じた地域性 | | |
| 20,000 | 人 | | → | | 16,518 | 年 | 社会体育施設利用者数 | 総合型地域スポーツクラブを中心とした生涯スポーツの推進 | | | | |
| 750 | 人 | | ↑ | | 249 | 年 | ハビネススポーツクラブ会員数 | めもりカヌーテラストレーニング施設活用促進 | | | | |
| 3 文化、図書館、アート | 昔から続いてきた「文化」や「伝統」を次の世代にも伝え、小さいからこそ、豊かで多様な文化資本が存在するまちに。そして、この町だからこその新しい「アート」が生まれるまちに。 | 2030年までに、地域の伝統的な文化が存続するとともに、多様な「アート」に触れることができる環境づくりが実現し、「アーティスト」が町で育ち、暮らしていくことができるようにする。 | 1 | 回 | ↑ | | | 年 | 文化イベント等の開催回数 | 文化・芸術活動の推進 (吉野川美術展、越いのついで等) | 土佐町教育振興基本計画 (教育大綱) | 11 健康な生活を送るために |
| | | | 5 | 回 | ↑ | | 3 | 年 | 芸術文化関係行事 (展示・発表) の開催回数 | | | |
| | | 1 | 部 | → | | 1 | 年 | 土佐町中学校部活動数 (文化部) | | | | |
| | | 1 | 人 | ↑ | | 2529 | 年 | 文化施設利用者数 | 文化施設の充実と活用促進 | | | |
| | | 1,150 | 人 | ↑ | | 393 | 月 | 町立図書館読書カード登録者数 | 「読書のまちづくり」の推進 | | | |
| 2030年までに、「読書のまち」宣言に基づき、本に親しむ人が増えていくようにする。 | 100 | % | ↑ | | 94 | 年 | 絵本の貸し出し数年間100冊以上の児童の割合 | 町立図書館の充実と活用推進 ブックスタート事業 | | | | |

ゴール

ターゲット

インディケータ

10

ゴール

45

ターゲット

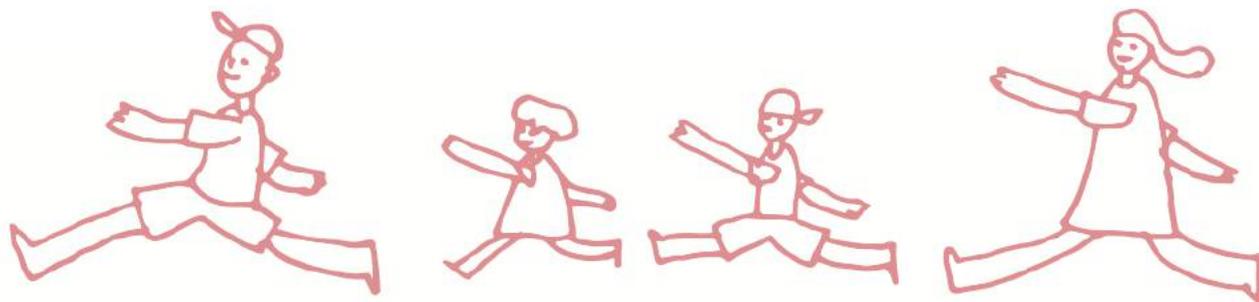
149

インディケータ

教育・学び・子育て

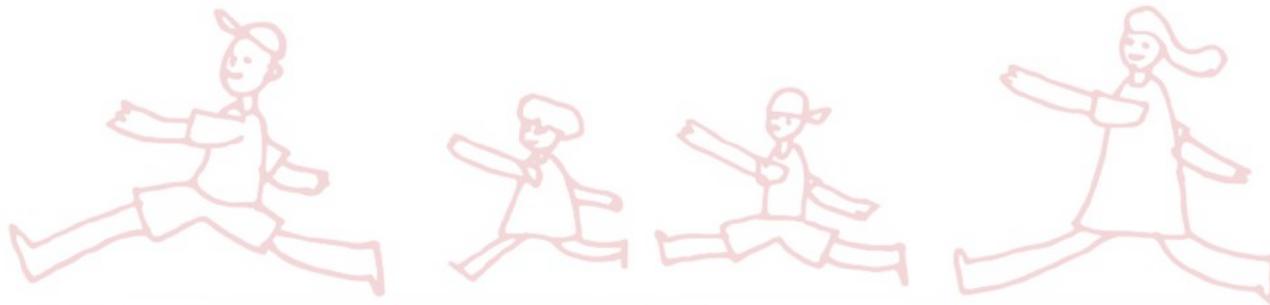
**この町で「生きる力」を学び、激動する世界に羽ばたいていく。
町で育つたくさん子どもたちの笑顔を、地域全体で支える。**

子どもたちが育つ環境を整え、ひとりひとりに寄り添う質の高い教育や学びが得られる町としていくことが大切です。土佐町ならではの環境や魅力を活かした教育が、子どもたちの「生きる力」を育み、激動する世界でも活躍できる人財に育てる。これまでもこれからも町全体でそんな子どもたちの成長を支えながら、少しずつでも、子どもが増えていく町にします。

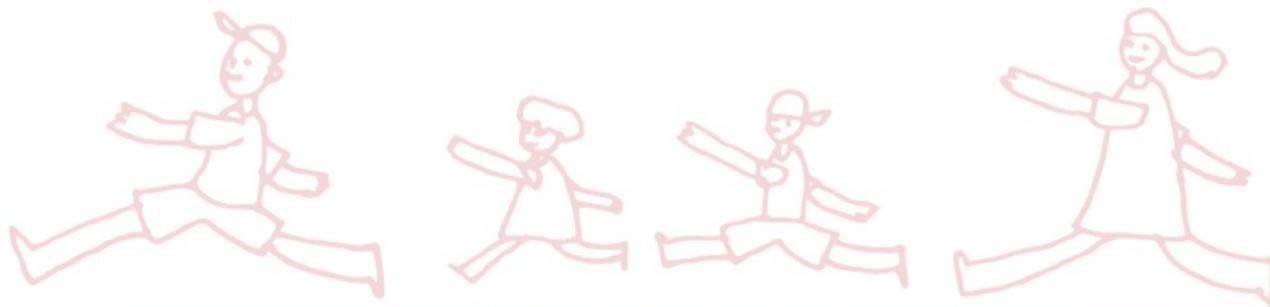


Quality Education

- 1-1 2030年までに、保育・小学校・中学校・高等学校・高等専門教育等の各世代において、本人の「ありたい姿」の実現に繋がる質の高い教育を受けられることができ、希望する進路を選択できるようにする。
- 1-2 2030年までに、地域特性や自然環境等を活かした、土佐町ならではの、土佐町だからできる教育が提供できるようにする。
- 1-3 2030年までに、社会及び自然環境の変動や、技術革新の進展等、世界が直面する様々な変化の中でも活躍できる人財へと育てることができる教育が提供できるようにする。
- 1-4 2030年までに、土佐町で暮らす全ての人々が、新たな知識を習得したり今ある知識を深めるため、生涯学び続けることができるようになる。
- 1-5 2030年までに、仕事との両立や親自身の学び、地域における支え合いなど、土佐町で安心して子育てをできるようにする。



- ・自己の希望に沿った進路選択
- ・小中学校において、専科教員が配置されていない教科の数
- ・土佐町からの嶺北高校進学者
- ・嶺北高校の1学年の生徒数
- ・保・小・中・高の中で連携している取組の数
- ・全国学力・学習状況調査(中3-3教科、小6-2教科)において、全国平均を上回った教科の数
- ・地域資源を活用した体験学習実施回数
- ・教員のICT活用指導力の状況に関する調査において、「できる」と回答した教員の割合
- ・こどもたちのサードプレイス設置箇所数
- ・不登校児童生徒等、教育を受けられない子どもの数
- ・待機児童数
- ・病児・病後児保育の可能な施設の数
- ・要保護児童対策地域協議会設置数



**10年間そのまま
変わらない計画は無い**

指標の進捗を毎月更新し公表

**モニタリングを繰り返し
4半期ごとに検証・見直し**

第7次土佐町振興計画進捗評価 指標及び取組施策一覧

| カテゴリ | ゴール (目標) | ターゲット (具体的な行動) | インディケータ(指標) | | | | | | 施策 | 関連計画 (データソース) | SDGsゴール | |
|--|--|--|-------------|-----|------|-----|-------------------------|---------------------------|--|--|---------------------------------------|---------------|
| | | | 目標値 | 単位 | 方針 | 現状値 | 当約値 | 年度 | | | | 測定指標 |
| 1 教育・学び・子育て | この町で「生きる力」を学び、活動する世界に伸ばしていく。町で育つたくさんの子どもたちの笑顔を、地域全体で支える。 | 2030年までに、保育・小学校・中学校・高等学校・高等専門学校等の各世代において、本人の「ありたい姿」の実現に繋がる質の高い教育を受けることができ、希望する進路を選択できるようにする。 | 100 | % | ↑ | | | 年 | 自己の希望に沿った進路選択 | 県北高校魅力化事業 | 土佐町教育振興基本計画(教育大綱) 土佐町子ども・子育て支援事業計画 | 4 質の高い教育をみんなに |
| | | | 0 | 教科 | ↑ | | | 年 | 小中学校において、専科教員が配置されていない教科の数 | | | |
| | | | 75 | % | ↑ | | 65 | 年 | 土佐町からの県北高校進学者 | 県北高校魅力化事業 | | |
| | | | 60 | 人 | ↑ | | 35 | 年 | 県北高校の1学年の生徒数 | 県北高校魅力化事業 | | |
| | | | | 回 | ↑ | | | 年 | 保・小・中・高の中で連携している取組の数 | 保・小・中・高連携 | | |
| | | 2030年までに、地域特性や自然環境を活かした、土佐町ならではの、土佐町だからできる教育が提供できるようにする。 | 5 | 教科 | ↑ | | 1 | 年 | 全国学力・学習状況調査(小学3教科、小学5教科)において、全国平均を上回った教科の数 | 学力向上対策推進事業(校内研修、基礎基本の定着のためのドリル等) | | |
| | | | 100 | 人 | → | | 77 | 随時 | 学校応援団活動人数 | 学校応援団推進本部による学校支援 | | |
| | | | 4 | 回 | ↑ | | 0 | 年 | 地域資源を活用した体験学習実施回数 | ふるさと教育事業 | | |
| | | | 80 | % | ↑ | | 45 | 年 | 教員のIT活用指導力の状況に関する調査において、「できる」と回答した教員の割合 | ICT教育の充実(ICT機器の整備、教員の指導力向上、児童生徒のICT活用) | | |
| | | | 100 | % | ↑ | | 84 | 年 | 専断にインターネットを活用して学習ができる環境がある児童生徒の割合 | 子どもたちのサードプレイスの設置 | | |
| 2030年までに、土佐町で暮らす全ての人々が、新たな知識を習得したり今ある知識を深めるため、生涯学び続けることができるようにする。 | 0 | 人 | ↑ | | 0 | 年 | 不登校児童生徒等、教育を受けられない子どもの数 | 教育支援センター事業 | | | | |
| | 0 | 人 | → | | 0 | 年 | 神保児童数 | こども未来館 | | | | |
| | 1 | 箇所 | ↑ | | 0 | 年 | 病児・病後児保育の可能な施設の数 | ファミリーサポートセンター等 | | | | |
| | 1 | 箇所 | → | | 1 | 年 | 養育施設や児童地域協議会設置数 | 児童虐待予防等に関する地域ネットワーク体制 | | | | |
| | 5 | 部 | → | | 5 | 年 | 土佐町中学校部活動数(運動部) | | | | | |
| 2 スポーツ | ここだからこそのスポーツ。誰しかできなかったスポーツ。どちらも大事。多様な感性に触れることができる。そしてそれが、健康や世代交流にもつながる。 | 2030年までに、人口が減っていく中でも、学校部活動や地域のスポーツクラブなどで、自分のやりたいスポーツに取り組みできるようにする。 | | % | ↑ | | | 年 | 部活動における外部指導員等の割合 | 部活動における外部指導員の活用促進 | 土佐町教育振興基本計画(教育大綱) | 4 質の高い教育をみんなに |
| | | | 6 | 部 | ↑ | | 5 | 年 | 県北高校部活動数(運動部) | | | |
| | | | 4 | 回 | ↑ | | 2 | 年 | 地域資源を活かしたスポーツイベントの開催数 | 土佐町スポーツ振興事業 | | |
| | | | 25 | 人 | ↑ | | 19 | 月 | カヌーアカデミー生人数 | カヌーアカデミー(競技カヌー)推進 | | |
| | | | 5 | 箇所 | ↑ | | 1 | 月 | スポーツツーリズム実施事業者数 | 競技カヌーのスポーツツーリズム推進及び合宿誘致 | | |
| | | 2030年までに、各世代でスポーツを通じた健康づくりの環境があり、それらを通じて、成人以上の世代の健康を促進する。 | 1,000 | 人 | ↑ | | 678 | 月 | アクティビティ利用者数 | パドルスポーツ等を中心としたアウトドアスポーツ及びアクティビティの推進 | | |
| | | | 500 | 人 | ↑ | | 0 | 月 | 健康づくりイベント及び運動教室の参加者数 | カヌーテラスでの健康づくりイベント及び運動教室を通じた地域性 | | |
| | | | 20,000 | 人 | → | | 16,518 | 年 | 社会体育施設利用者数 | 複合型地域スポーツクラブを中心とした生涯スポーツの推進 | | |
| | | | 750 | 人 | ↑ | | 249 | 年 | ハビネススポーツクラブ会員数 | かめうらカヌーテラストレーニング施設活用促進 | | |
| | | | 40 | チーム | → | | 44 | 年 | 参加チーム数 | 土佐町駅伝大会 | | |
| 2030年までに、地域の伝統的な文化が存続するとともに、多様な「アート」に触れることができる環境づくりが実現し、「アーティスト」が町で育ち、暮らしていくことができるようにする。 | 1 | 回 | → | | 0 | 年 | 自転車イベント回数 | 自転車を活用したまちづくり推進事業 | | | | |
| | 5 | 回 | ↑ | | 3 | 年 | 芸術文化関係行事(展示・発表)の開催回数 | 文化イベント等の開催回数 | | | | |
| | 1 | 部 | → | | 1 | 年 | 土佐町中学校部活動数(文化部) | 文化・芸術活動の推進(吉野川美術展、鯉のついで等) | | | | |
| | | 人 | ↑ | | 2529 | 年 | 文化施設利用者数 | 文化施設の充実と活用促進 | | | | |
| | | 人 | ↑ | | | 年 | 町立図書館利用者数 | 「読書のまちづくり」の推進 | | | | |
| 3 文化、図書館、アート | 昔から続いてきた「文化」や「伝統」を次の世代にも伝え、小さいからこそ、豊かで多様な文化資本が存在するまちに。そして、この町だからこその新しい「アート」が生まれるまちに。 | 2030年までに、「読書のまち」宣言に基づき、本に親しむ人が増えていくようにする。 | 1,150 | 人 | ↑ | | 393 | 月 | 町立図書館読書カード登録者数 | 町立図書館の充実と活用推進 | 土佐町教育振興基本計画(教育大綱) | 11 持続可能なまちづくり |
| | | | 100 | % | ↑ | | 94 | 年 | 絵本の貸し出し数年間100冊以上の児童の割合 | ブックスタート事業 | | |

ゴール

ターゲット

インディケータ

永遠の水源地

Origin × **[3,713]** × *X* = *Sustainable*

水源地に生きる【3,713】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、
まちの持続可能性となる

第7次土佐町振興計画

副本編



毎月更新して
町webにアップ

< > ★毎月更新：振興計画











🔍 検索



(作業用) 土佐町振興計画_副本.docx



振興計画進捗評価_指標及び…施策一覽



振興計画進捗評価_指標及び…点).pdf



振興計画進捗評価_指標及び…2111.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…2112.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…201.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…202.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…203.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…204.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…205.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…206.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…207.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…208.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…209.pdf



振興計画進捗評価_指標及び…覽 2210



振興計画進捗評価_指標及び…覽 2211



振興計画進捗評価_指標及び…覽 2212



振興計画進捗評価_指標及び…覽 2301



振興計画進捗評価_指標及び…覽 2302



土佐町振興計画_副本 2107.pdf



土佐町振興計画_副本 2108.pdf



土佐町振興計画_副本 2110.pdf



土佐町振興計画_副本 2111.pdf



土佐町振興計画_副本 2112.pdf



土佐町振興計画_副本 2201.pdf



土佐町振興計画_副本 2202.pdf



土佐町振興計画_副本 2203.pdf



土佐町振興計画_副本 2204.pdf



土佐町振興計画_副本 2205.pdf



土佐町振興計画_副本 2206.pdf



土佐町振興計画_副本 2207.pdf



土佐町振興計画_副本 2208.pdf



土佐町振興計画_副本 2209.pdf



土佐町振興計画_副本 2210.pdf



土佐町振興計画_副本 2211.pdf



土佐町振興計画_副本 2212.pdf



土佐町振興計画_副本 2301.pdf

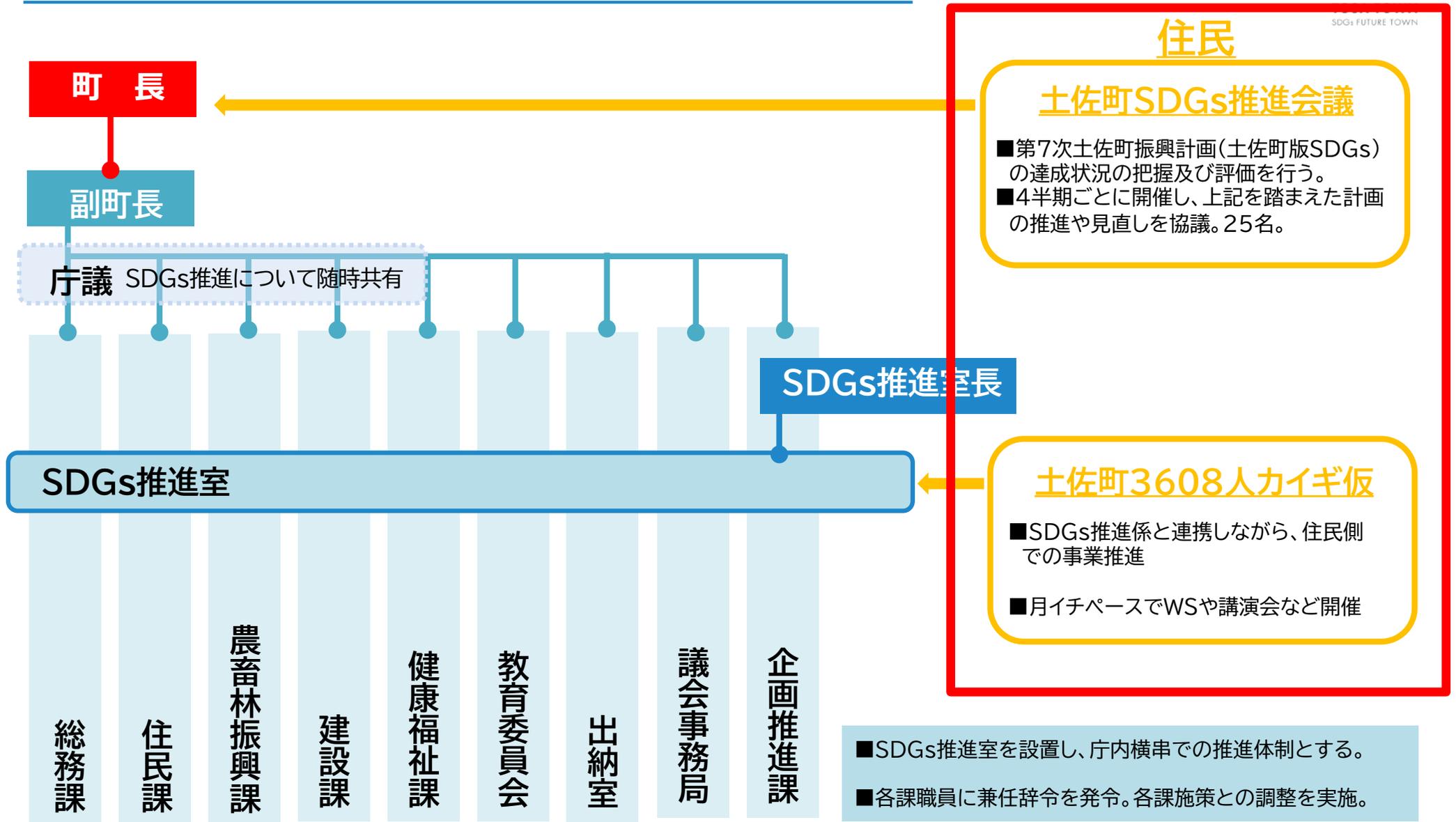


土佐町振興計画_副本 2302.pdf

土佐町組織体制



SDG FUTURE TOWN



土佐町SDGs推進会議



- 町の各分野の「次世代のリーダー」25人で構成（年齢構成や性別も考慮）
- 年4回開催し、土佐町SDGsのモニタリングや計画の見直し等について議論を行う。
- 会議の際は託児等対応。Zoom及びYouTubeで配信。
- 直近では部会（まもる部会、つくる部会、つなぐ部会）を設置し、来年度予算に住民意見を反映させる検討



AFS

END
23:37P



TOFF



TOFF

SERVO AF

TOFF

0000000000

Liquitous、高知県土佐町で独自開発の参加型合意形成プラットフォーム「Liqlid」の実証事業を実施

「ひとりひとりの個性を最大化することが、まちの持続可能性となる」高知県土佐町とLiquitousが、四国エリア初の実証事業に取り組む

株式会社Liquitous

🕒 2021年12月10日 15時40分



株式会社Liquitous（本社：神奈川県横浜市、代表取締役CEO：栗本 拓幸）は、高知県土佐町（町長：和田 守也）とオンラインの参加型合意形成プラットフォーム「Liqlid（リクリッド）」の実証事業を開始することをお知らせいたします。Liquitousは、「ひとりひとりの個性を最大化することが、まちの持続可能性となる」を総合計画で謳う土佐町の姿勢に強く共感して、「町に暮らす“住民全員”の考えを地域全体に向けて可視化する仕組み」として「Liqlid」の実証事業を行います。



“若者世代”の考えを可視化

株式会社Liquitousと連携し、オンラインの参加型合意形成プラットフォーム「Liqolid」の実証



※ソフトウェアの画面は開発中のものです。実際の画面とは異なる場合があります。

改めて、SDGsを取り入れるとは



TOSA TOWN
SDGs FUTURE TOWN

誰ひとり取り残されない

No one will be left behind

バックカスティング、インディケーター

経済・社会・環境の統合、循環

Interlinkage

つながり、連携(背景としての分断)

Partnerships



土佐町SDGs未来都市計画

「持続可能な水源のまち土佐町」
~人々の豊かな営みが「世界」を潤す水を育む~

土佐町SDGs未来都市計画の理念



環境 土佐町は水源のまちである



経済 水源は地域の生業（一時産業）により守られる

社会 過疎高齢化や人口減少により、水源の維持（≒地域の暮らしの維持）が困難になる



未来都市計画を推進することで
持続可能な「水源のまち」を目指す

水源の実態の把握

水源の保全及び涵養の実態や、それから生じる経済的・社会的価値を定量的かつ具体的に把握する。

6 安全な水とトイレ
を世界中に



水源の実態の把握

従来は、地域の生業(林業や棚田での稲作)を通じて、自然と水源の保全が行われ、水源涵養が実現されてきた

高齢化及び人口減少が本格化するこれからの時代には、より意識的かつ効果的な水源保全のあり方へシフトしていくことが必要

水源のあり様や、そこから生じる産業連関、社会インパクトを可能な限り定量的かつ明確に把握することに取り組む

水源のあり様の把握

表流水、地下水等の水源のあり様を把握し、より効果的な水源保全や涵養へと繋げる。

→水循環モデルの作成

産業連関の把握

水源を保全する生業から繋がる産業連関を把握し、地域の経済循環を構築する。

→産業連関表の作成

社会インパクトの把握

水源を保全することから生じる社会的な価値や効果を把握し、水源を保つ意義を明確化する。

→社会インパクト評価の実施

17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



ソーシャル
インパクト
ボンド型の
資金スキームの構築



水源保全や涵養の価値を明確化し“資源”を水源地に還流させる。

水源の実態の定量的評価



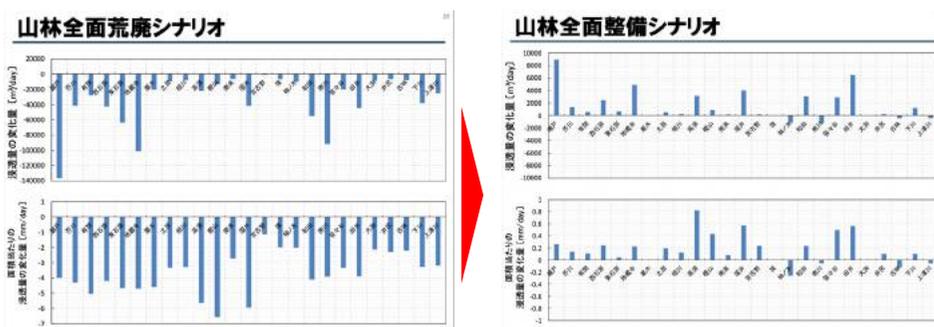
TOSA TOWN
SDG's FUTURE TOWN

水循環解析

■山林と水源涵養の関係性を定量的に把握するため、「水循環解析調査」を実施。気象、地形、土地利用・被覆、地質、ダム関連データ、河川流量等をコンピューター上で統合し、早明浦ダム・吉野川水系の3D水循環モデルを構築。山林整備など水源涵養に資すると考えられる取り組みの効果をシミュレーションすることができるようにした。

■解析初年度は山林荒廃シナリオ、山林整備シナリオ、棚田放棄シナリオ、太陽光パネル整備シナリオ等を作成。今後、様々な統計データ等と統合したデータプラットフォームの構築を予定している。

水循環解析基礎調査から抜粋



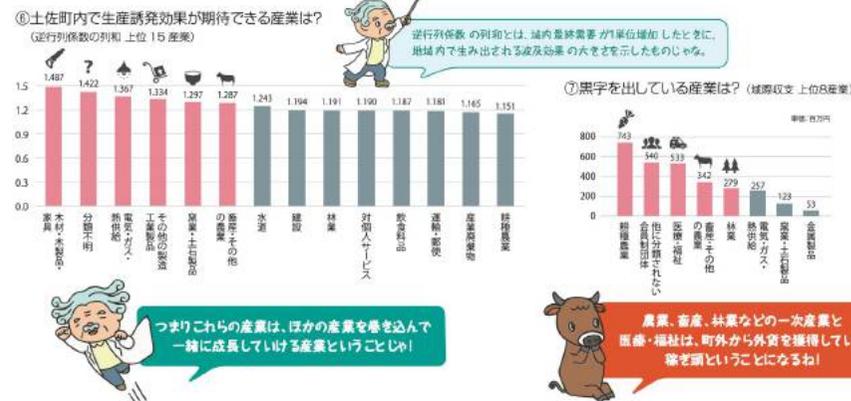
産業連関表

■左図にも示すように水源の保全・涵養と山林の整備の関連は強い。一方で、山林の整備を促進するために林業それ自体を振興することは短期的にはハードルが高い。

■このため、水源の保全・涵養に効果が高い産業と、その産業に付加価値を高める産業や、生産誘発効果を高め地域経済循環に繋がる産業を把握するため、土佐町産業連関表を作成。「木材関連産業」の生産誘発効果が高いといった結果が出ている。

■今後は、連関表を拡張し、水の多面的価値の把握にも取り組むことを予定している。

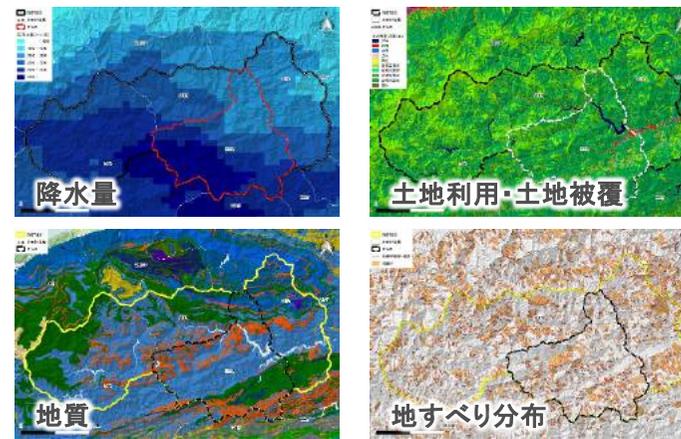
土佐町産業連関分析から抜粋



2021年度の成果・到達点

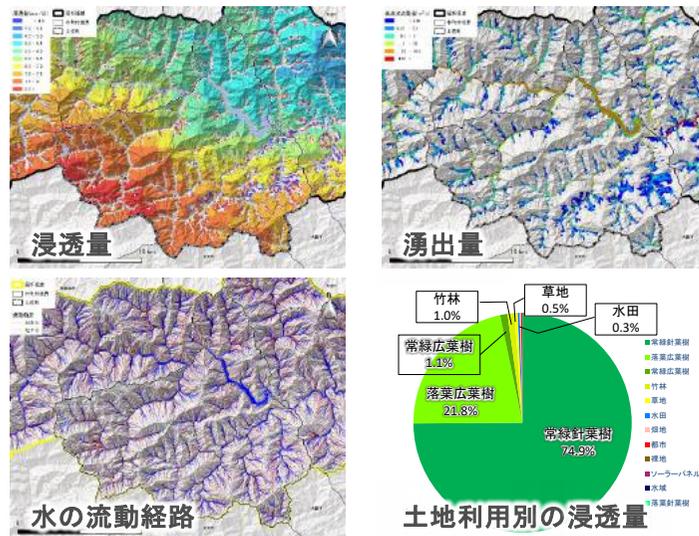
= ゴール達成に向けた土台構築!

土佐町水循環関連データの集約



フィジカル空間
水循環に
関連する
データの
一元管理
に向けて

土佐町水循環モデルの整備



サイバー空間
水循環の
実態把握
・数値化
・可視化
に向けて

過去から現在、そして未来の 水循環の実態を捉えていくために

過去

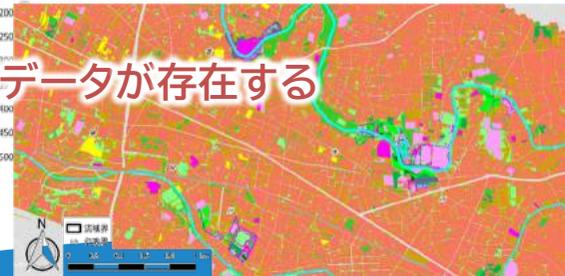
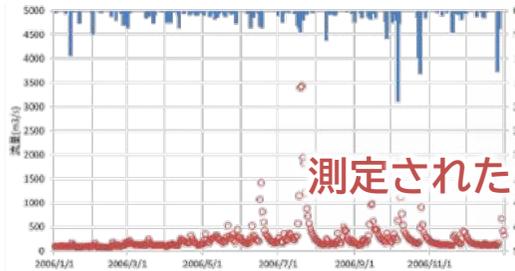
測定データは
少ない

現在

測定されたデータが存在する

未来

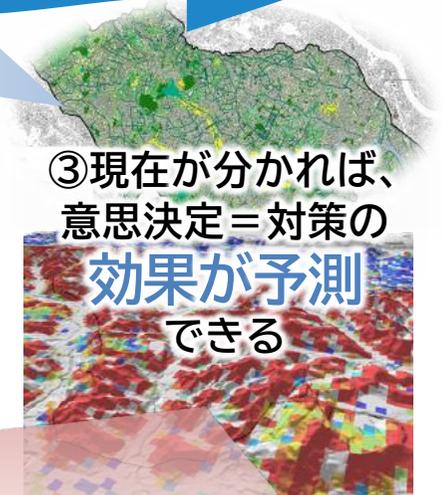
測定データは
存在しない



②実態が正確に
分かれば、**過去**が
浮かび上ってくる



①これまでに蓄積されたデータに
基づいてコンピュータによる
流域水循環シミュレーションに
よって、できる限り正確に
現実の現象を再現する

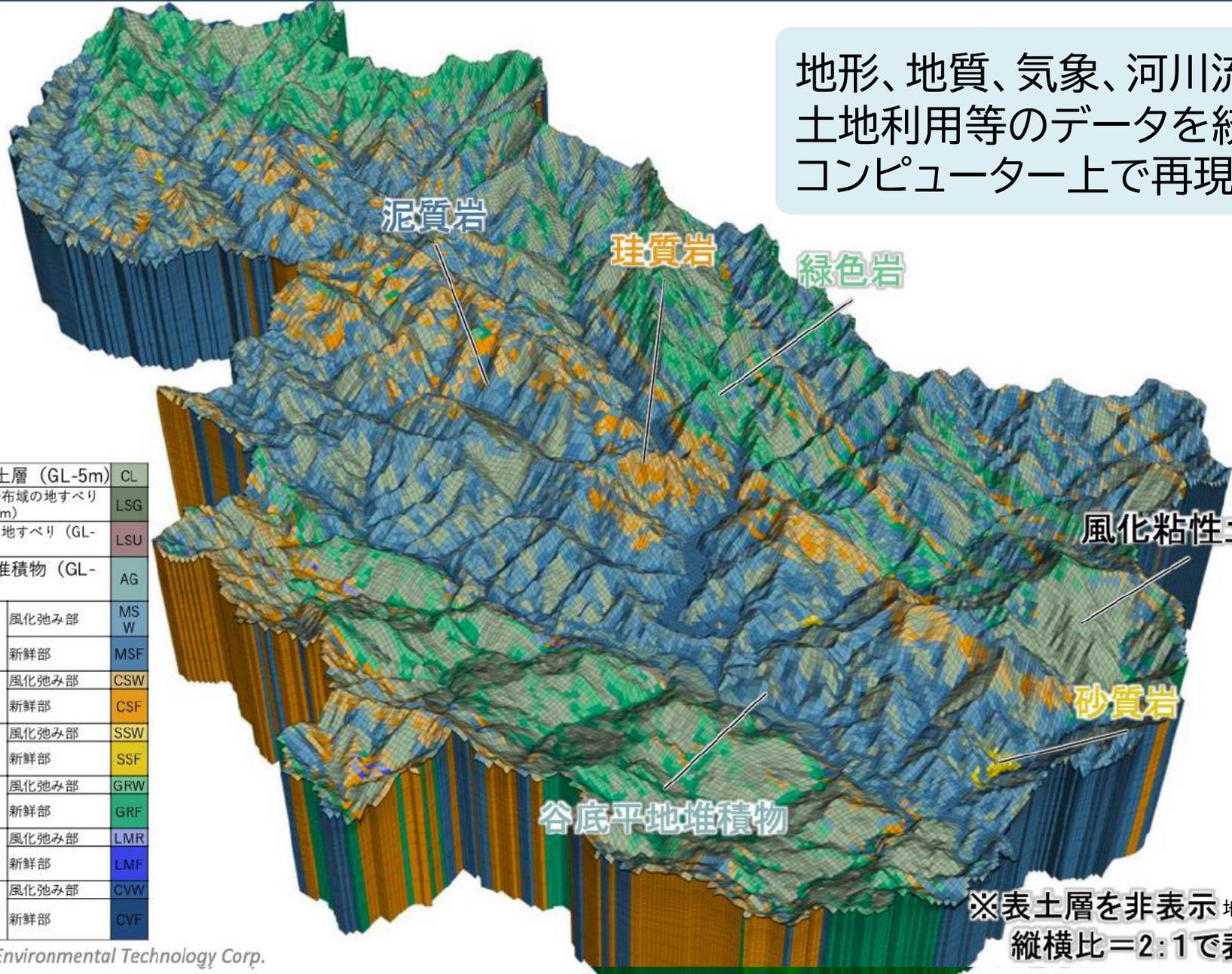


③現在が分かれば、
意思決定=対策の
効果が予測
できる

気候変動などに伴う外的要因の変化

三次元数値シミュレーションモデル鳥瞰図(地質区分で色分け)

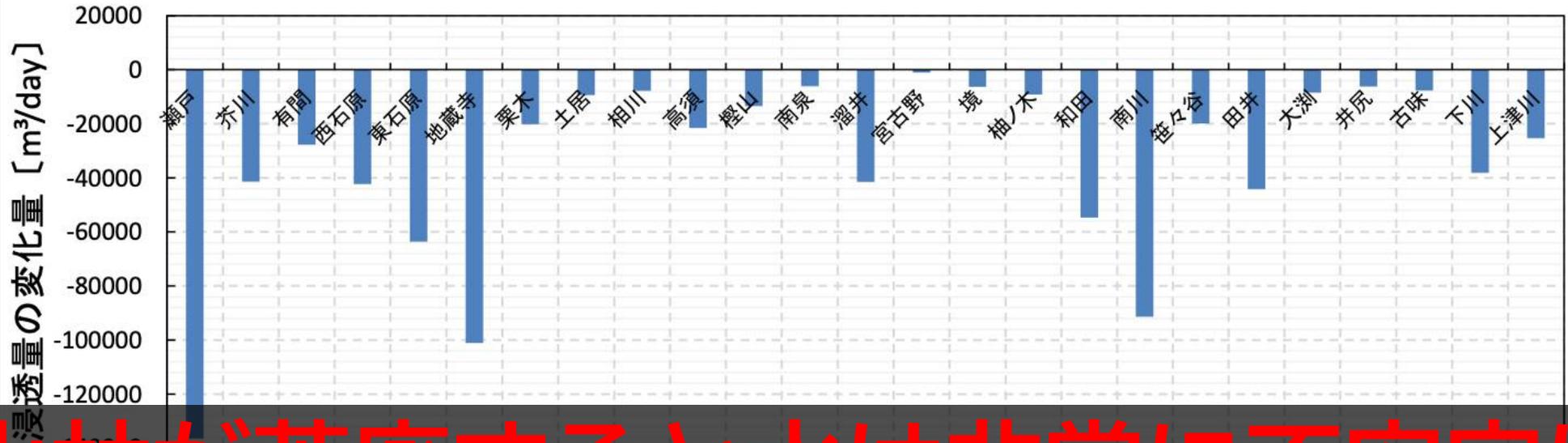
地形、地質、気象、河川流量、土地利用等のデータを統合、コンピュータ上で再現



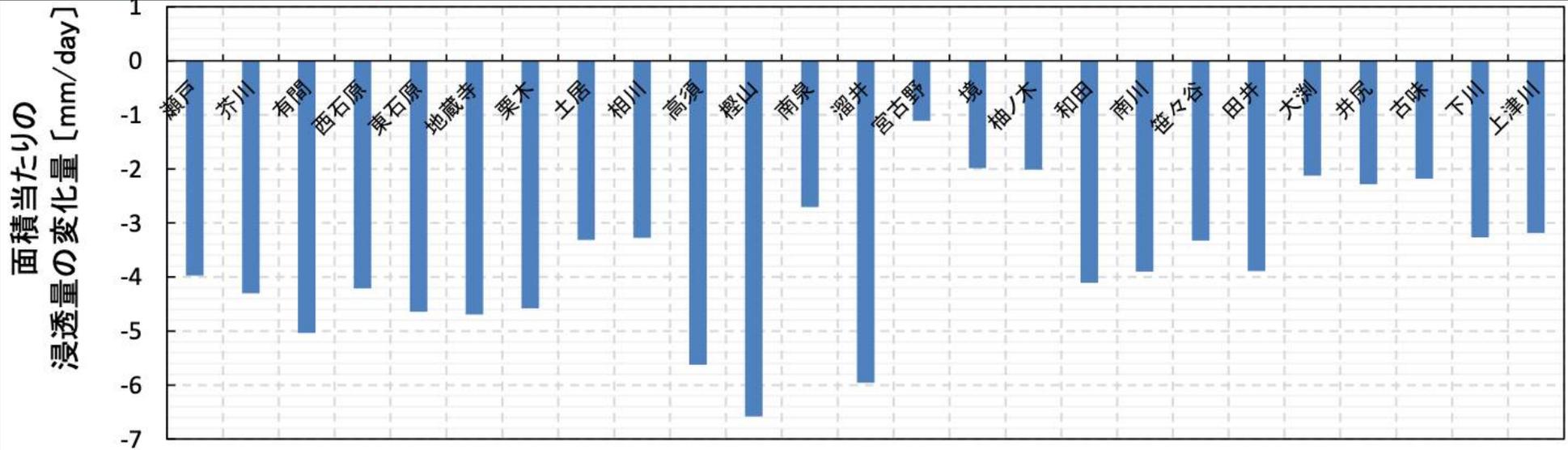
| | | | |
|------|----------------------|-------|-----|
| | 風化粘性土層 (GL-5m) | CL | |
| 地すべり | 緑色岩分布域の地すべり (GL-10m) | LSG | |
| | その他の地すべり (GL-10m) | LSU | |
| 土塊 | 谷底平地堆積物 (GL-5m) | AG | |
| 基盤岩類 | 泥質岩 | 風化弛み部 | MSW |
| | | 新鮮部 | MSF |
| | 珪質岩 | 風化弛み部 | CSW |
| | | 新鮮部 | CSF |
| | 砂質岩 | 風化弛み部 | SSW |
| | | 新鮮部 | SSF |
| | 緑色岩 | 風化弛み部 | GRW |
| | | 新鮮部 | GRF |
| | 石灰質岩 | 風化弛み部 | LMR |
| | | 新鮮部 | LMP |
| | 中新世・礫岩及び火山岩 | 風化弛み部 | CVW |
| | | 新鮮部 | CVF |

※表土層を非表示 地圏環境テクノロジー 縦横比=2:1で表示

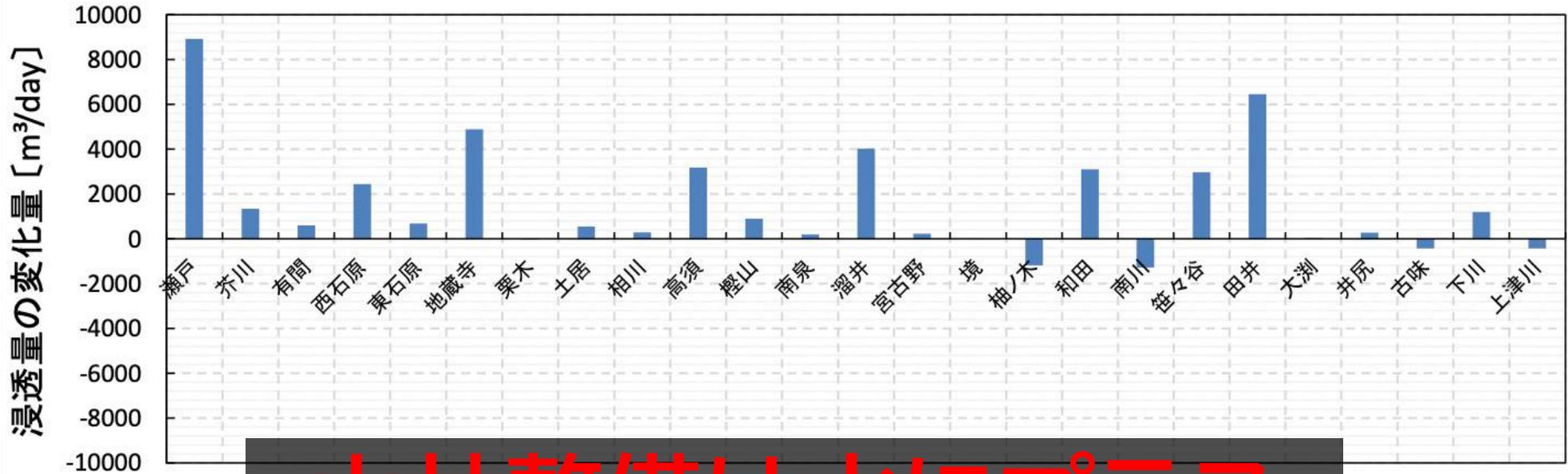
山林全面荒廃シナリオ



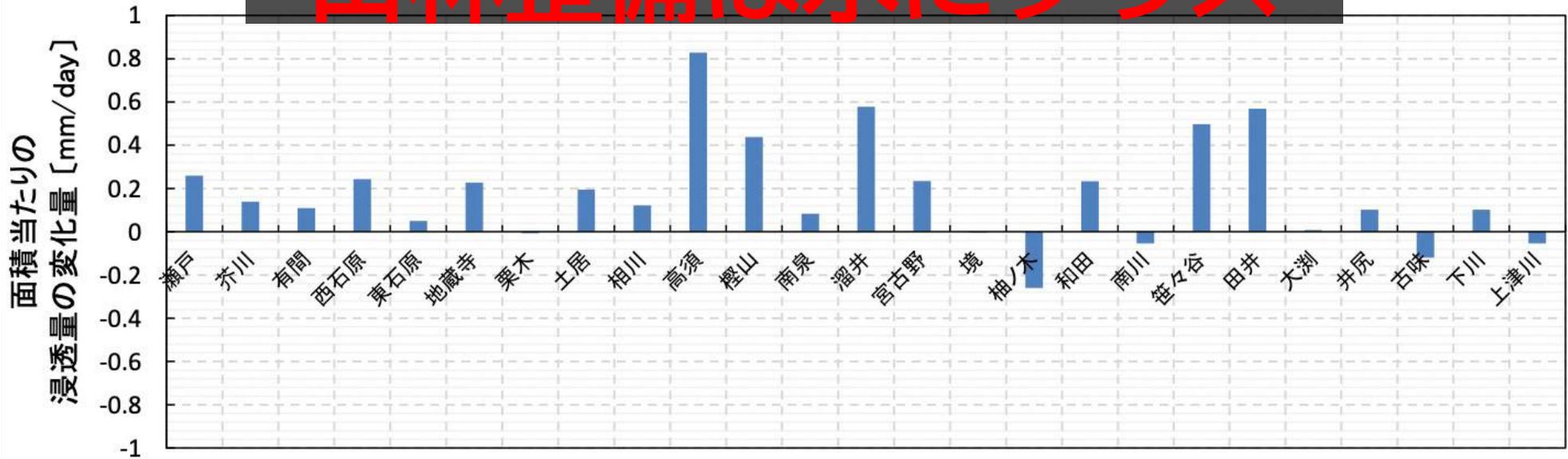
山林が荒廃すると水は非常に不安定に



山林全面整備シナリオ



山林整備は水にプラス



水源の実態の定量的評価

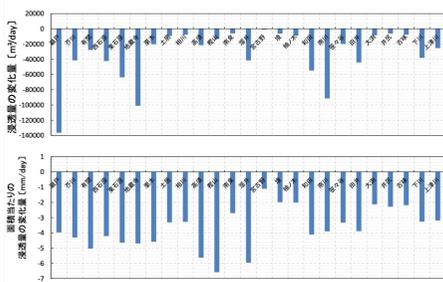
水循環解析

■山林と水源涵養の関係性を定量的に把握するため、「水循環解析調査」を実施。気象、地形、土地利用・被覆、地質、ダム関連データ、河川流量等をコンピューター上で統合し、早明浦ダム・吉野川水系の3D水循環モデルを構築。山林整備など水源涵養に資すると考えられる取り組みの効果をシミュレーションすることができるようにした。

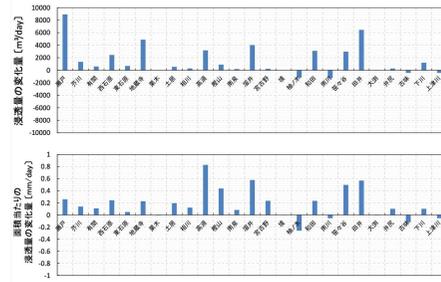
■解析初年度は山林荒廃シナリオ、山林整備シナリオ、棚田放棄シナリオ、太陽光パネル整備シナリオ等を作成。今後、様々な統計データ等と統合したデータプラットフォームの構築を予定している。

水循環解析基礎調査から抜粋

山林全面荒廃シナリオ



山林全面整備シナリオ



産業連関表

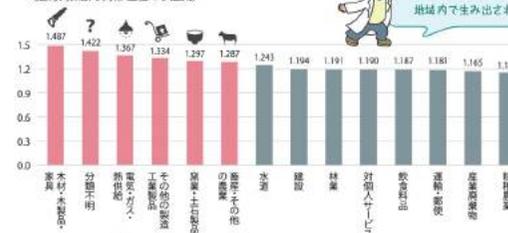
■左図にも示すように水源の保全・涵養と山林の整備の関連は強い。一方で、山林の整備を促進するために林業それ自体を振興することは短期的にはハードルが高い。

■このため、水源の保全・涵養に効果が高い産業と、その産業に付加価値を高める産業や、生産誘発効果を高めて地域経済循環に繋がる産業を把握するため、土佐町産業連関表を作成。「木材関連産業」の生産誘発効果が高いといった結果が出ている。

■今後は、連関表を拡張し、水の多面的価値の把握にも取り組むことを予定している。

土佐町産業連関分析から抜粋

①土佐町内で生産誘発効果が期待できる産業は？
(逆行列係数の列和 上位15産業)



逆行列係数の列和とは、域内最終需要が1単位増加したときに、地域内で生み出される波及効果の大きさを示したもののじゃ。

②黒字を出している産業は？(域内収支 上位8産業)



つまりこれらの産業は、ほかの産業を巻き込んで一輪に成長していける産業ということじゃ！

農業、畜産、林業などの一次産業と医療・福祉は、町外から外貨を獲得している稼ぎ頭ということになるわ！

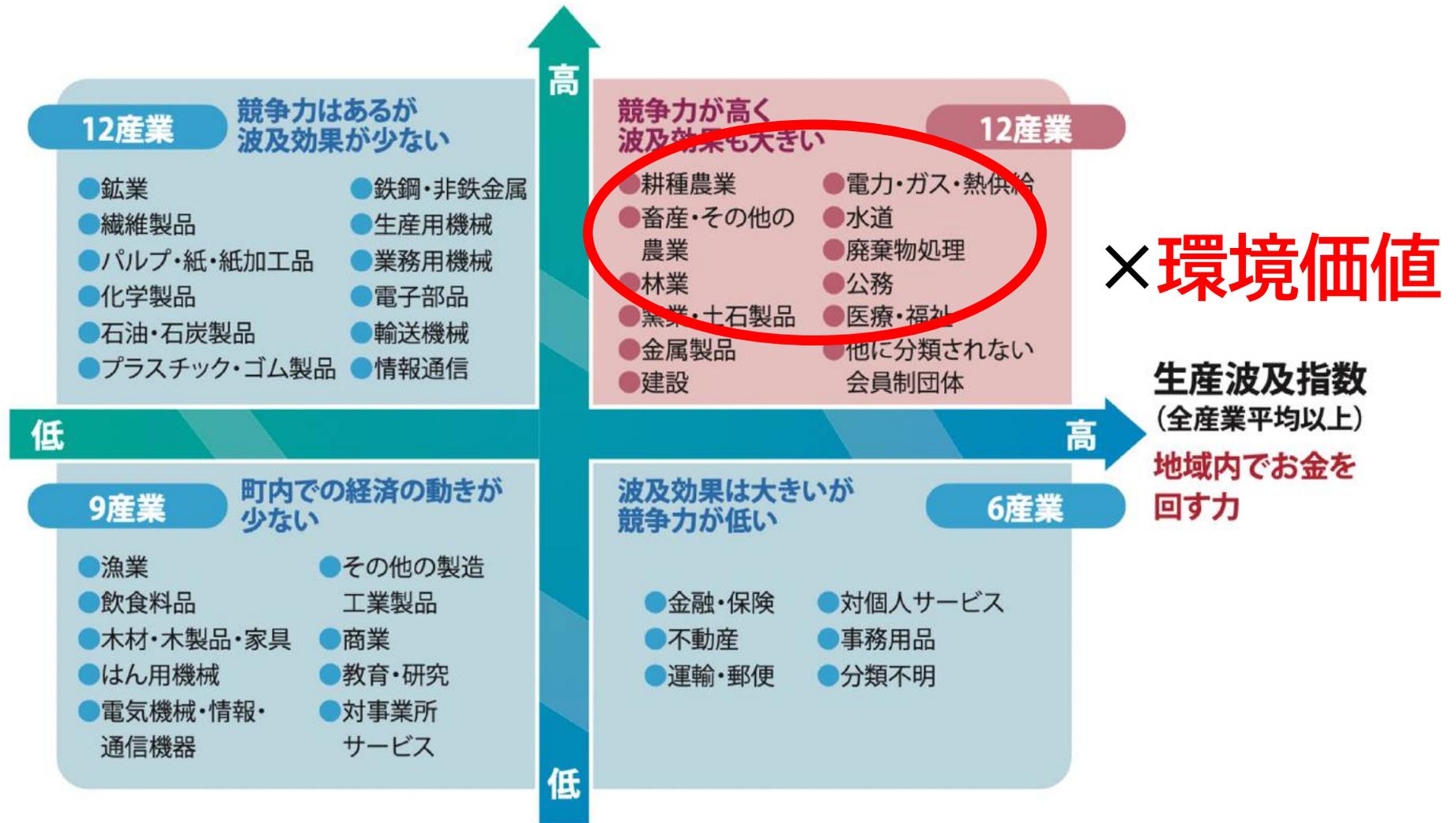
「環境」を、それ自体として維持すると**COST**

「環境」が、「経済」を通じて維持されると、
地域にとっての**BENEFIT/PROFIT**となる可能性

それを可能とする**SYSTEM**は整いつつある

■土佐町の産業分布図

RIC指数(0以上)
外からお金を稼ぐ力



■ RIC指数とは…地域外からお金を稼ぐ力をみる指標

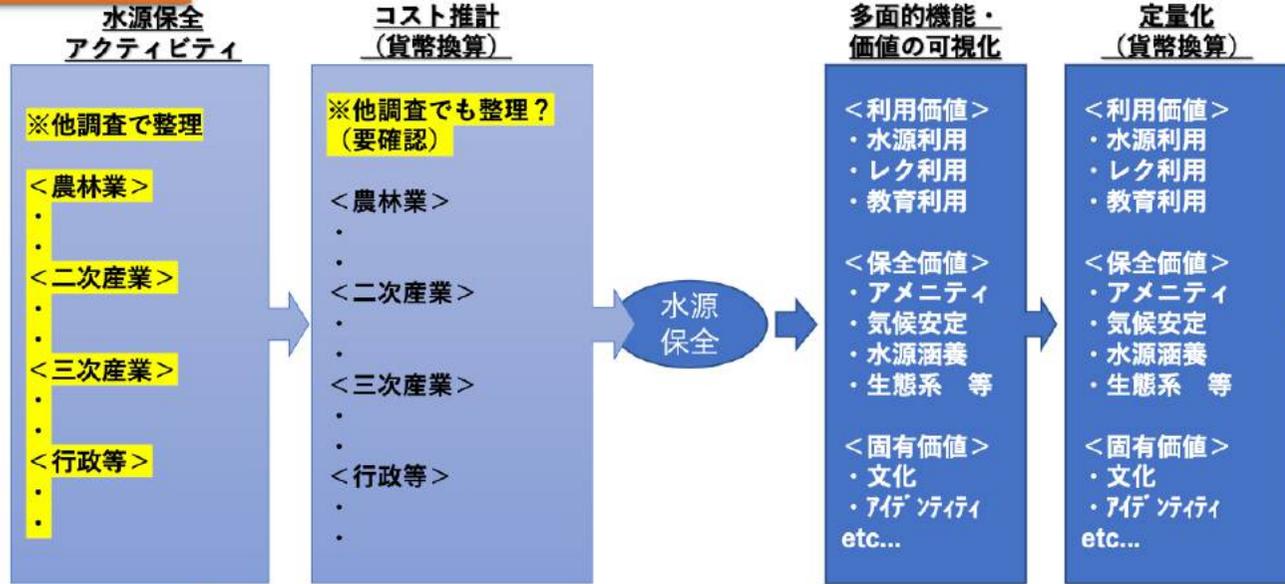
RIC指数=域際収支÷域内生産額×100

■ 生産波及指数とは…地域内でお金を回す力をみる指標

生産波及指数=自給率×逆行列の列和

産業連関表の拡張

検討フロー



水源保全アクティビティ組み込み型 地域産業連関表の作成

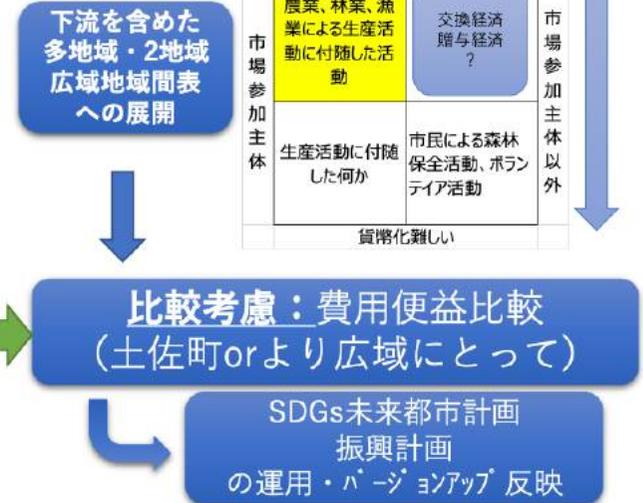
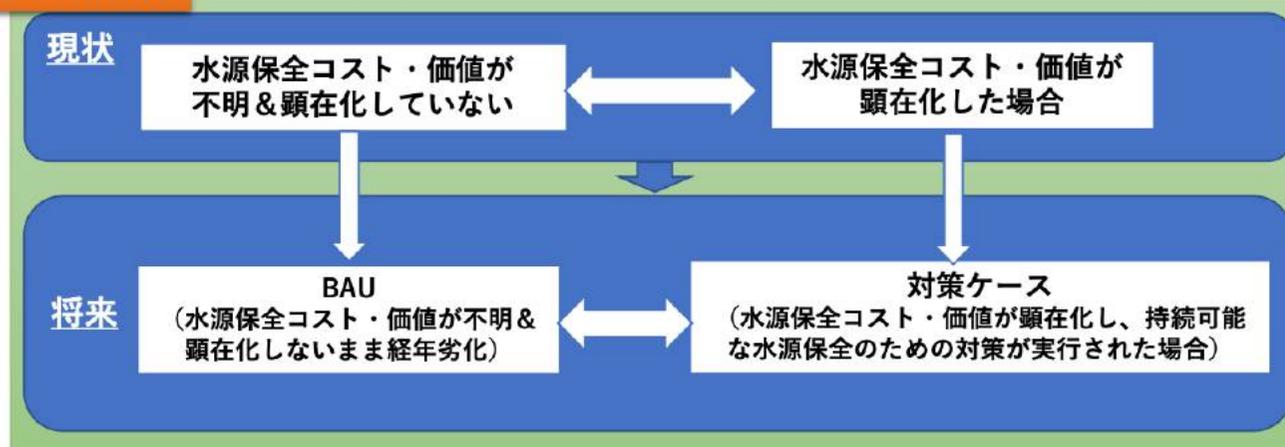
| | 1次 | 2次 | 3次 | 水源保全 | 最終需要 | 移輸出 | 移輸入 | 生産額 |
|-------|----|----|----|------|------|-----|-----|-----|
| 1次 | | | | コスト | | | | |
| 2次 | | | | | | | | |
| 3次 | | | | | | | | |
| 水源保全 | 便益 | | | | | 便益 | | |
| 粗付加価値 | | | | | | | | |
| 生産額 | | | | | | | | |

生産主体としての町民含む

非貨幣価値付帯表

文化価値、幸福度なども射程に

シナリオの考え方



改めて、SDGsを取り入れるとは



TOSA TOWN
SDGs FUTURE TOWN

誰ひとり取り残されない

No one will be left behind

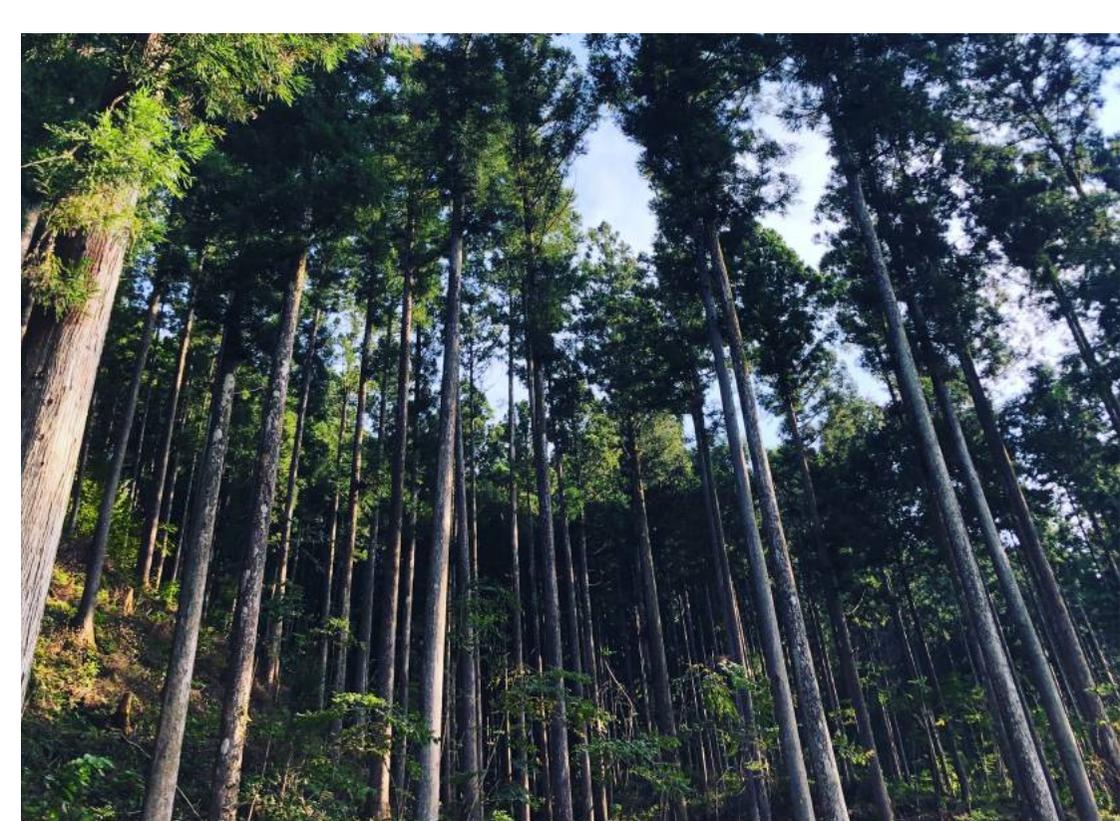
バックカスティング、インディケーター

経済・社会・環境の統合、循環

Interlinkage

つながり、連携(背景としての分断)

Partnerships



流域連携を通じた持続可能な
水源の保全・涵養を実現する中間支援組織
「グリーンアクセラレーター」構築事業

代表都市 高知県土佐町



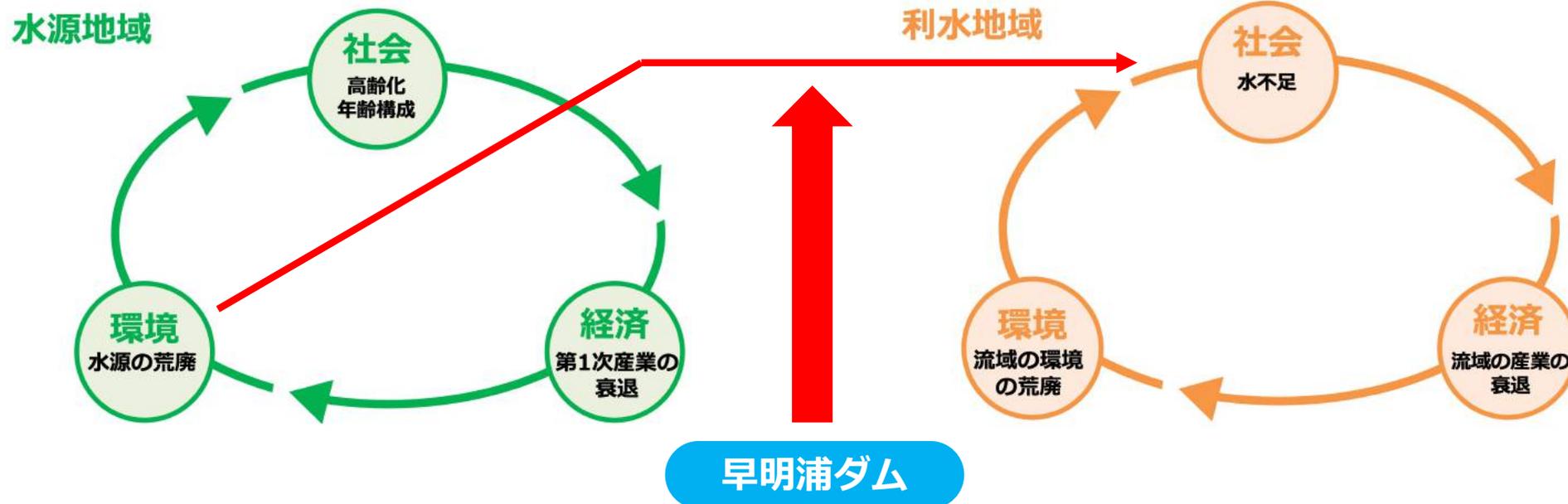
連携都市 香川県高松市



高知県本山町



モデル事業の背景：地域間の繋がり



水源域の衰退が、
利水域の持続可能性を
毀損する

lose – loseな状態

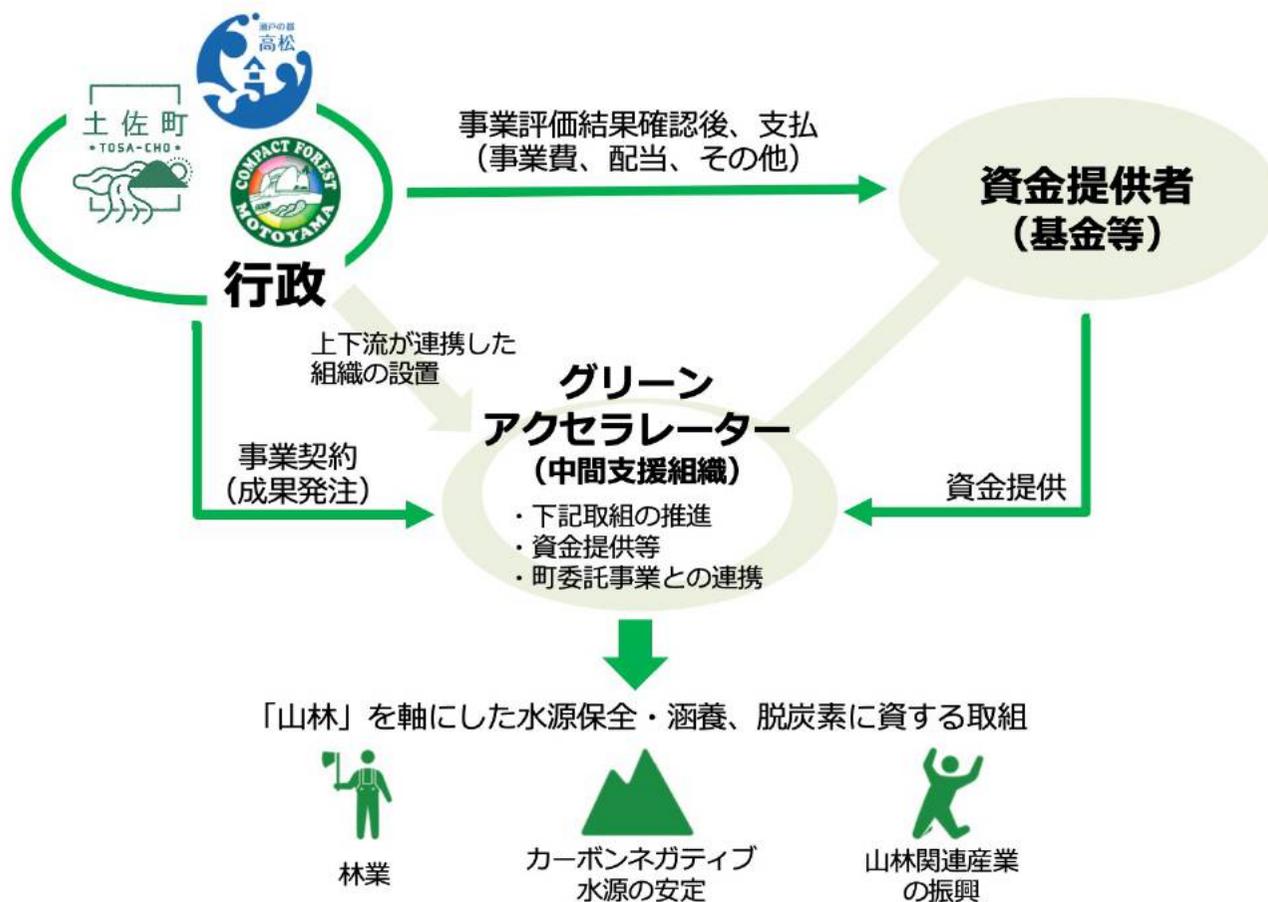


水源と利水の協働が、
双方の持続可能性を
高めよう

win – winな状態

早明浦ダム（水資源機構） https://www.water.go.jp/yoshino/ikeda/sameura/dam_mokuteki3.html

概要図



■利水域と水源域の連携のもと、下記の同時実現を目指す。

- ①水源の保全・涵養
- ②山林の活用、関連産業の創出
- ③地域脱炭素

■これを実現するための中間支援組織として「グリーンアクセラレーター(仮称)」の構築を目指す。当該組織は「水源の保全・涵養に資する林業及び山林関連産業の振興」に向けた取組を実施することとし、その機能として下記を想定している。

- ①事業の創出・育成(人材確保含む)
- ②上記に向けた資金提供(投資等)

■グリーンアクセラレーターを構築するための仕組みとしてPFS(ペイフォーサクセス)、特にSIB(ソーシャルインパクトボンド)のスキームを用いることとし、成果連動型事業として実施する。

■長期的な視点として、山林の持つ多面的機能を「価値化」し、水源地域の暮らしの持続可能性を高めることを目指す。

水源域・利水域のパートナーシップ

- ・生産誘発効果の高い「木材関連産業」を振興することで「林業」をはじめとする基幹産業の活性化に繋がる

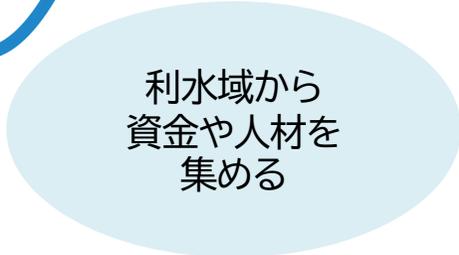
▶若い世代の担い手の確保(UIターン)



- ・林業が活性化し、山林が適切に整備されることで、水源の保全及び涵養、水の安定化に繋がる

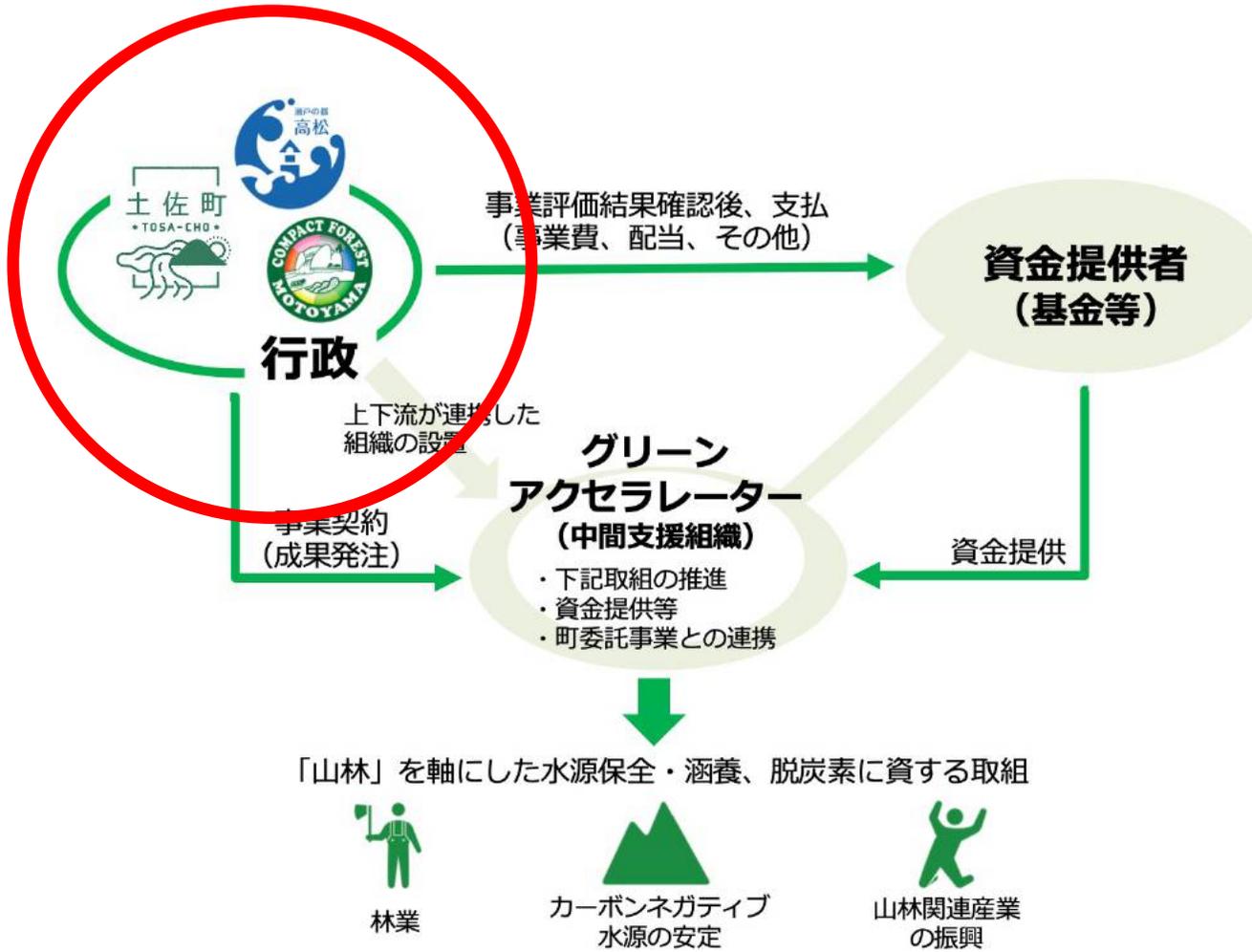


- ・水の安定は、土佐町や嶺北地域はもとより利水地域の生活や産業の安定に寄与している



利水域から
資金や人材を
集める

モデル事業の概要



■利水域と水源域の連携のもと、下記の同時実現を目指す。

- ①水源の保全・涵養
- ②山林の活用、関連産業の創出
- ③地域脱炭素

■これを実現するための中間支援組織として「グリーンアクセラレーター(仮称)」の構築を目指す。当該組織は「水源の保全・涵養に資する林業及び山林関連産業の振興」に向けた取組を実施することとし、その機能として下記を想定している。

- ①事業の創出・育成(人材確保含む)
- ②上記に向けた資金提供(投資等)

■グリーンアクセラレーターを構築するための仕組みとしてPFS(ペイフォーサクセス)、特にSIB(ソーシャルインパクトボンド)のスキームを用いることとし、成果連動型事業として実施する。

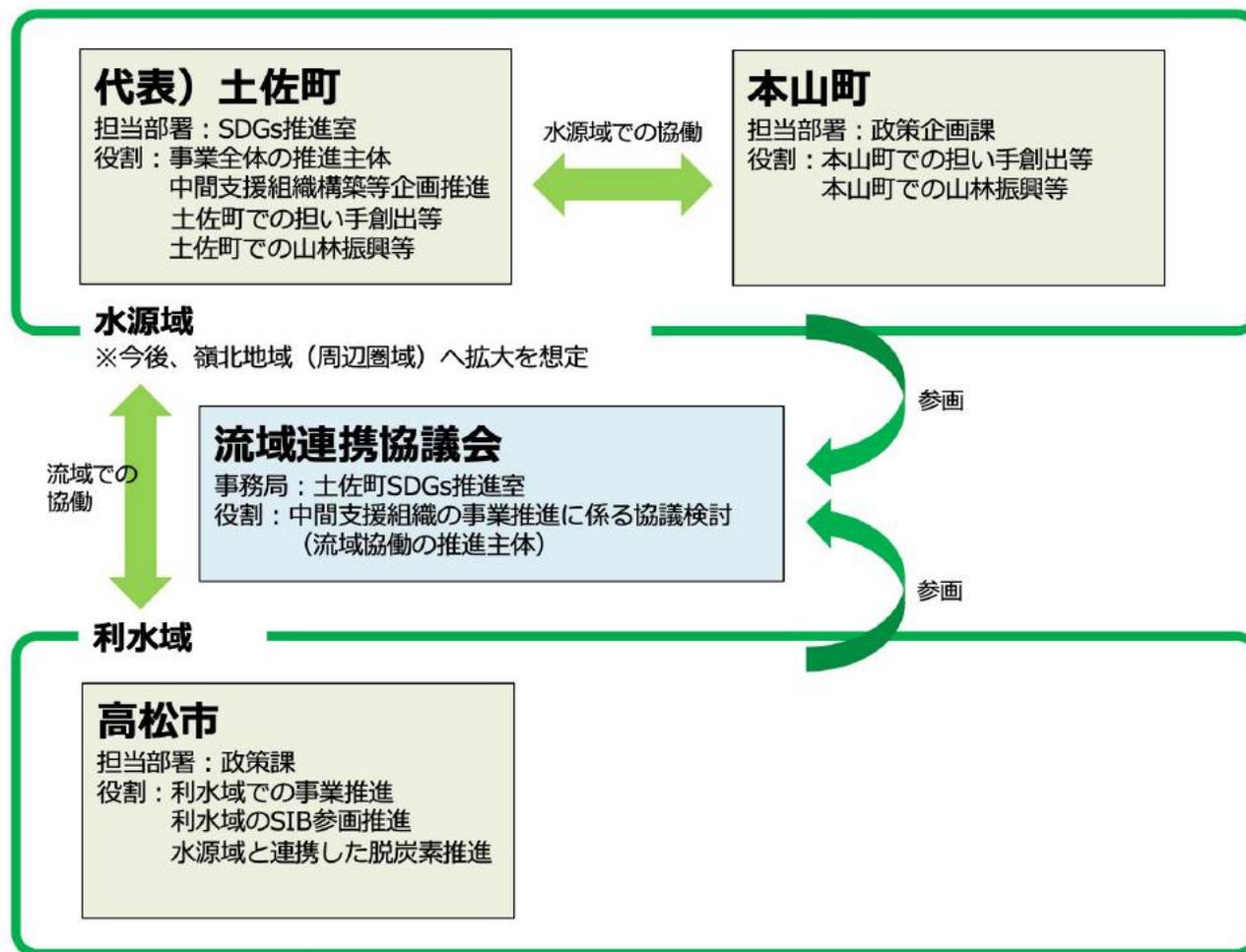
■長期的な視点として、山林の持つ多面的機能を「価値化」し、水源地域の暮らしの持続可能性を高めることを目指す。



実施体制



TOSA TOWN
SDGs FUTURE TOWN



■モデル事業は「水源」を介してステークホルダーの関係にある水源域と利水域が広域連携して取り組む。

■水源域においては、水源の保全・涵養に資すると考えられる林業や木材関連産業の振興に取り組む。このためには、若い世代の担い手の確保や、彼らがそうした産業に安定的に従事するための成長性のある産業創出が必要となっている。当初は土佐町及び本山町の協働で取り組み、今後「嶺北地域」への拡大を想定している。

■利水域には、人口や産業が集積している。一方で、気候変動に伴い干ばつと極地的豪雨の増加が予想されており、利水域が持続可能であるためには、現時点から水源の保全・涵養に向けて取り組む必要がある。さらに、水源の保全・涵養に向けて取り組むことは、水源域とのカーボンオフセットにも繋がる。

■取組を推進するため「流域連携協議会(仮)」の設置を想定している。これを通じて、「流域」で水源を保全・涵養を実現するモデルへの転換を目指す。

モデル事業の概要



■利水域と水源域の連携のもと、下記の同時実現を目指す。

- ①水源の保全・涵養
- ②山林の活用、関連産業の創出
- ③地域脱炭素

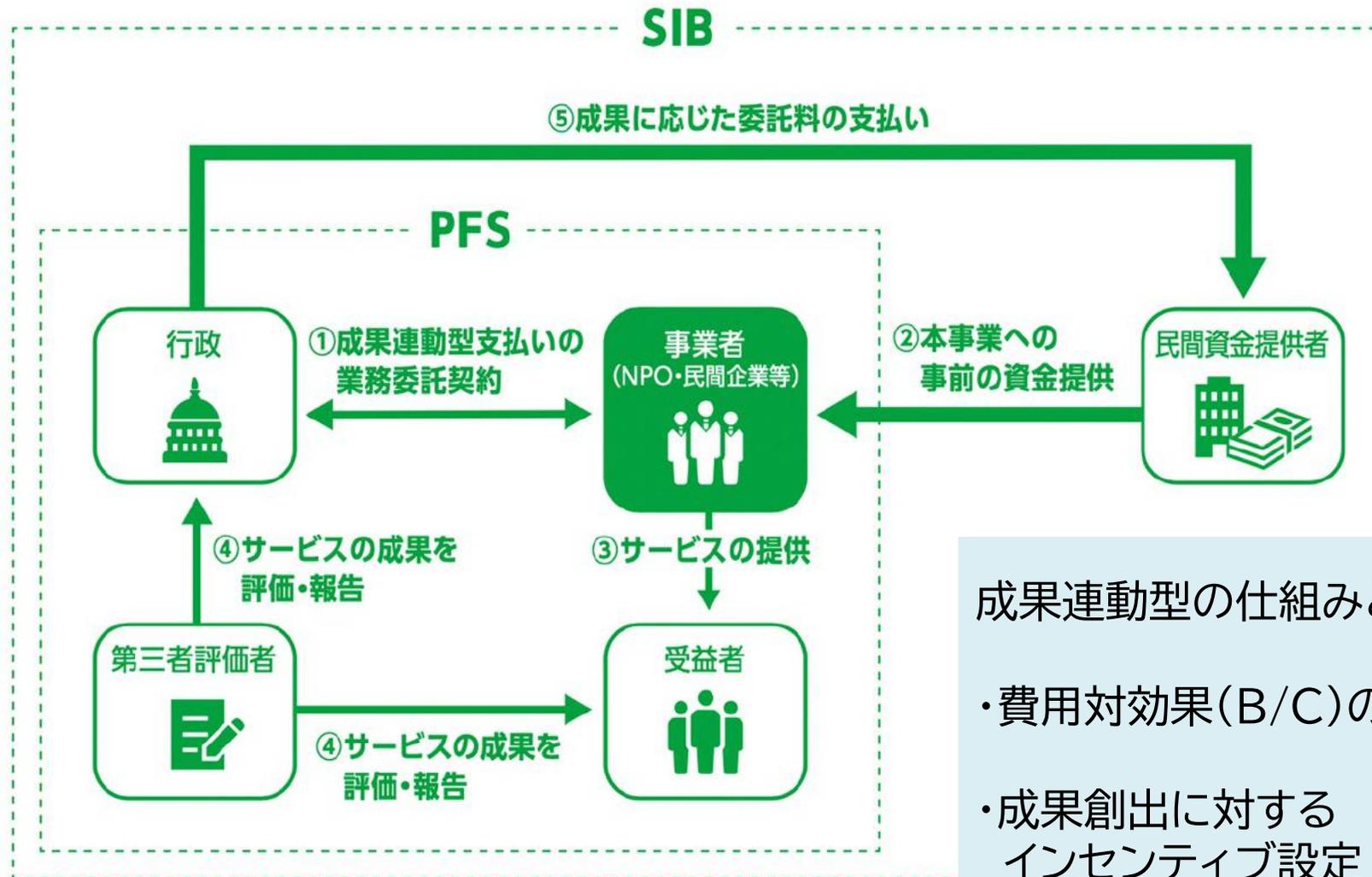
■これを実現するための中間支援組織として「グリーンアクセラレーター(仮称)」の構築を目指す。当該組織は「水源の保全・涵養に資する林業及び山林関連産業の振興」に向けた取組を実施することとし、その機能として下記を想定している。

- ①事業の創出・育成(人材確保含む)
- ②上記に向けた資金提供(投資等)

■グリーンアクセラレーターを構築するための仕組みとしてPFS(ペイフォーサクセス)、特にSIB(ソーシャルインパクトボンド)のスキームを用いることとし、成果連動型事業として実施する。

■長期的な視点として、山林の持つ多面的機能を「価値化」し、水源地域の暮らしの持続可能性を高めることを目指す。

ソーシャルインパクトボンド

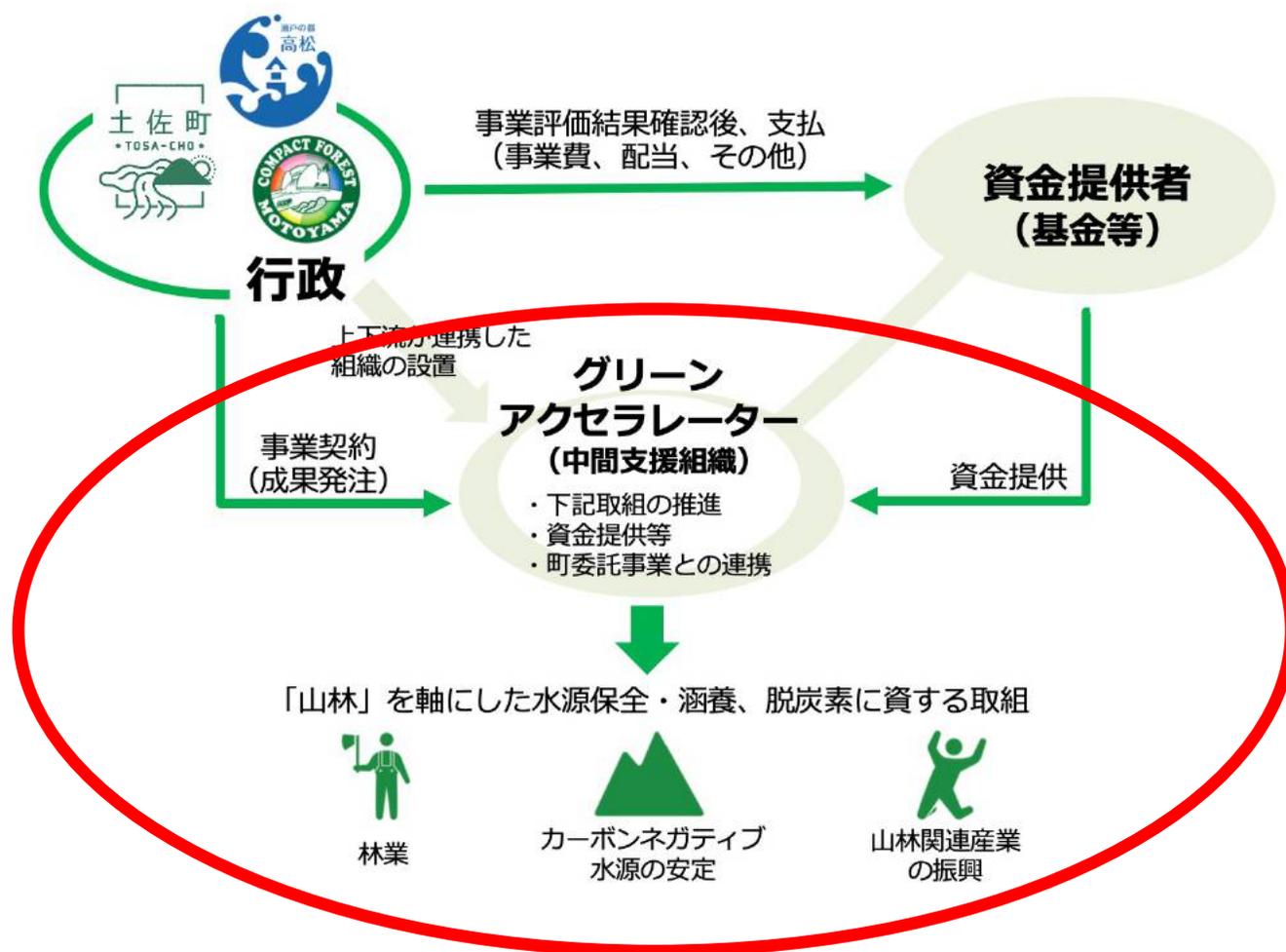


成果連動型の仕組みとすることで、

- ・費用対効果(B/C)の担保
- ・成果創出に対するインセンティブ設定

引用：社会変革推進財団

モデル事業の概要



■利水域と水源域の連携のもと、下記の同時実現を目指す。

- ①水源の保全・涵養
- ②山林の活用、関連産業の創出
- ③地域脱炭素

■これを実現するための中間支援組織として「グリーンアクセラレーター(仮称)」の構築を目指す。当該組織は「水源の保全・涵養に資する林業及び山林関連産業の振興」に向けた取組を実施することとし、その機能として下記を想定している。

- ①事業の創出・育成(人材確保含む)
- ②上記に向けた資金提供(投資等)

■グリーンアクセラレーターを構築するための仕組みとしてPFS(ペイフォーサクセス)、特にSIB(ソーシャルインパクトボンド)のスキームを用いることとし、成果連動型事業として実施する。

■長期的な視点として、山林の持つ多面的機能を「価値化」し、水源地域の暮らしの持続可能性を高めることを目指す。

グリーンアクセラレーター



- 水源域と利水域が「中間支援組織」を構築
- 水の安定確保、持続可能な山林経営(+地域脱炭素)、
住み続けられるまちづくりを同時実現
- 稼ぐ地域(≡利水域)から、その環境を守る地域(≡水源域)へ
資金を還流させる成果連動型モデル(PFS・SIB)
- **ロジックモデルの整備(化学的根拠づけ・計測可能性)**
- 中間支援組織の機能設計
→ 水源涵養や生物多様性維持も踏まえた森林経営管理
+ 木材関連産業の振興(起業) + 木材商社的機能

モデル事業の効果:目指すゴール



【ゴール】
流域連携(自治体連携・官民連携)による持続可能な水源の保全及び涵養の実現

持続可能な水源の保全・涵養が実現することにより、利水域、水源域それぞれにおいて持続可能な暮らしが実現する。



【ゴール】
①水源の保全及び涵養に寄与するかたちでの林業の担い手の確保
②木材の付加価値を高める関連産業の創出及び担い手の確保

水源が保全・涵養されるためには、「山が動く」ことが必要。そして、山が動くためには、そこで若い世代が働くことができる必要がある。



【ゴール】
利水域、水源域が連携した地域脱炭素の実現

気候変動に伴い干ばつと局地的豪雨の増加が見込まれることから、水の安定確保には地域脱炭素に向けた取り組みが必要。山林が更新されることにより、杉林の炭素吸収量が回復する。また、木材関連産業の在り方として、NbS(Nature based Solutions)の推進が見込まれる。



【ゴール】
①利水域の「住み続けられるまちづくり」に向けた安定的な水の供給の確保
②水源域において若者世代が地域に定着するための第3次産業等の振興



利水域の暮らしや産業が持続可能であるには、水の安定確保が必要。一方、山林関連産業に担い手を確保するためには、多様な人が暮らせる町としていくことが必要

改めて、SDGsを取り入れるとは



TOSA TOWN
SDGs FUTURE TOWN

誰ひとり取り残されない

No one will be left behind

バックカスティング、インディケーター

経済・社会・環境の統合、循環

Interlinkage

つながり、連携(背景としての分断)

Pertnerships

インプット
(資源・リソース)

アクティビティ
(取組・事業)

アウトプット
(想定する結果)

初期アウトカム

中期アウトカム
(事業を通じて目指す成果)

長期アウトカム

インパクト

経済

住民
土佐町民
土佐町SDGs推進会議
利水地域市民

専門家等
大学・研究機関
民間事業者
国・県広域行政
地域金融機関
その他関係機関

資金
各種交付金、補助金等
企業版ふるさと納税
金融機関投資及び融資

水利用の影響が大きい産業等からの資金還流

自治体
土佐町役場
SDGs推進室
・SDGs推進員

地域おこし協力隊制度を活用した自伐型林業事業

サテライトオフィスを活用した都市圏企業連携

地域経済循環創出事業による起業促進プログラム

特に注力する先導的取組
グリーンアクセラレーター構築事業

・経済と環境を両立する中間支援組織の構築
・利水域と連携した資金循環の仕組みづくり
・水や山林の多面的機能の発揮の促進

水循環の解析及び産業連関表の拡張

・山林と水源の保全・涵養の繋がりを可視化
・産業と水利用の連関の把握
・それらと水源の暮らしを可視化するデータダッシュボードの構築

乗合交通実証（チョイソコ事業）

自動運転やグリーンスローモビリティ実証

PFIを活用した单身者向け集合住宅整備の検討

集落活動センター事業
あったかふれあいC事業

高等学校魅力化事業ほか教育や学びの機会の確保に向けた取組

地域おこし協力隊
5名程度

都市圏企業との連携
5件程度/年

起業家人材の呼び込み
20名程度/年

水源域と利水域が連携した中間支援組織
林業や関連産業の支援

利水域と連携したソーシャルインパクト債券
基金等金額

多面的機能を発揮するための基盤づくり
炭素吸収料算定
自然共生サイト等

早明浦ダム水系の
①3次元水循環モデル
②将来シミュレーション
③データダッシュボード

早明浦ダム水系の産業連関表の拡張
①水価値の可視化
②水利用の定量把握

農山村部と市街地間の移動手段確保

市街地地域内における移動手段の確保

多様な世帯人数に対応できる住宅基盤の確保

介護予防や地域の共助の拠点の場づくり

探究型の学びや地域資源を活かした教育など、地域の学びの環境の魅力化

地域において林業に従事する担い手が増える。
自伐型林業家：10名

地域資源を活かした新たな起業や新規事業が生まれる。
木材関連起業：3件/年

利水域との連携のもと、起業等を支援する仕組みが整う。
投資額等

町内全ての土地の水源涵養効果が定量的に把握される。
水源涵養把握：90%

山林の多面的機能を発揮できるゾーニングが実現する。
ゾーニング割合：100%

住宅や移動手段が確保され、暮らしやすい環境が実現する。
移動手段アクセス
住戸数

全世代全員活躍のための基盤が今後も維持される。
あったかふれあいC及び集落活動Cの維持

誰もが“質の高い”学びの機会にアクセスすることができる。
地元進学率：70%
地外進学者数等：50名

基幹産業を軸に、様々な関連産業や雇用が生まれる。
地域雇用の増加
所得水準の改善

林業や関連産業が活性化し、山林の更新が活発化する。
効果的な山林更新

GHG吸収や、生物多様性維持等多面的機能を発揮できる。
多面的機能の発揮

水源域の環境的価値が可視化されることにより、利水域との連携が更に強固となる。
利水域とのパートナーシップ

利水域を軸とした様々な交流が拡大する。
交流人口
関係人口

UIターンや定住者の増加、出生の増加が実現する。
UIターン
年間出生数

地域経済循環を高める様々な産業が生まれ、付加価値の高い一次産業が実現している。
地域経済循環率：75%
起業件数：5件/年
若い林業者：55%

水源域と利水域が協働し、双方の持続可能性を高めお地域循環共生圏が実現している。
水の浸透量：1.2倍
山林多面的機能：100%
資金循環：15,000千円

全ての人が活躍でき、心身ともに健康で、満ちた幸福に暮らせる町が実現している。
幸福度：将来幸福度の向上
年間出生数：現行維持
自己実現：100%

Origin × [3,626] × X(エックス) = Sustainable

永遠の水源地



2019-2020

19.5 住民幸福度調査

計画策定

20.7 SDGs未来都市計画

第7次土佐町振興計画(総合計画)

2021-2022

SDGs推進室 設置

取組が本格的にスタート

実行

広域連携SDGsモデル事業

自分たちが進めていることが
「誰かを取り残していた」んだな。

世の中(地球、世界、日本、地域)には
たくさんの「良さ」がある。

すれ違う「良くしたい」を
“全体”の「良くなっている」に変換する
仕組みがSDGs

下川町は、それを本質的に理解して、
まちづくりしているように思えました。

おれは世界中のみんなを愛してる。
ほんとうだ、神様に誓ってもいい。
おれはみんなを愛してる、
おまえたちみんなを!

『世界の中心で愛を叫んだ**けもの**』 ハーラン・エリスン



Thank you !